宮城学院資料室年報 ―信・望・愛―（二〇二三年度） 第29号

宮城学院資料室

ISSN 1344-9710

宮城学院資料室年報

MIYAGI GAKUIN ARCHIVES OF HISTORY REVIEW

信　望　愛

2023年度

第29号

宮城学院資料室

宮城学院資料室年報

MIYAGI GAKUIN ARCHIVES OF HISTORY REVIEW

信　望　愛

2023 年度

第 29 号

宮城学院資料室

もくじ

□巻頭言…… 3
理念の継承　ドイツ改革派教会と宮城学院
佐々木哲夫

□2023年度宮城学院創立記念講演…… 13
私と宮城学院　藤沢 智子

□論考…… 20
宮城学院女子大学における「自校史教育」の実践 ―コロナ禍での出発
小羽田誠治

□論考…… 31
三浦綾子の死生観とキリスト教信仰
松本　周

□論考…… 41
宮城女学校第7回生の夫たち　―顔写真特定と目歯比率―
佐藤 亜紀

□論考…… 57
宮城女学校の戦時期学籍簿の検討(2) ―成績表と学科目の推移―
佐藤 亜紀

□小論…… 73
宮城学院の植物たち　その4 ―ツリバナ―
栗原　健　　木村 春美

□彙報…… 77
2023(令和5)年度彙報
宮城学院資料室

〔表紙〕宮城学院礼拝堂のステンドグラス　「降誕」
ガブリエル・ロワール(1980)

巻頭言「理念の継承　ドイツ改革派教会と宮城学院」

資料室運営委員会委員長
理事長・学院長　佐々木哲夫

創立の理念

学舎創立の理念を短い言葉で表現したものがスクール・モットーである。例えば、紀元前4世紀にプラトンによって設立された哲学学校アカデメイアの門戸には「幾何学を学ばざる者は入門を許さず」の言葉が掲げられていたとの伝承がある[1]。アカデメイアでは、幾何学、天文学、理論音楽などの数学的諸科学が哲学研究の予備知識として求められた。体育訓練を含む長期の教養課程を修めた者に哲学の学びと研究が許されたのである。アカデメイアは、529年に東ローマ皇帝ユスティニアヌスの勅令によって閉鎖されるまで続いた。この年は、ベネディクトウスがカッシーノ山に修道院を建てた年でもある。

その後1000年ほど経過した1559年、スイスのジュネーブに伝道者や聖書教師養成のために神学と哲学を修めるジュネーブ学院（現在のジュネーブ大学）が創設された。宗教改革者カルヴァンの起草した神の栄光のために奉仕する学舎である。開校当初各国からの正規聴講生約九百人が入学したという。学院入口には「主を畏るるは知恵の始めなり」の聖句が刻まれていた[2]。カルヴァンは「主を畏れる」について「さて、主を恐れる恐れであるが、これがすべての聖徒たちにそなわるものであることは、聖書のいたるところに証言されていて、あるところでは『知恵』そのものであると言われている（詩篇111:10. 箴言1:7, 15:33, ヨブ28:28）」と記している[3]。「主を畏るるは知恵の始めなり」の聖書出典箇所として『キリスト教綱要』では箴言1章7節が三回、箴言9章10節および15章33節が各一回記されている[4]。興味深いことに、箴言2章9節を引用することはなく箴言1章7節を繰り返し出典箇所としている。それゆえ、ジュネーブ学院入口の「主を畏るるは知恵の始めなり」の聖書出典箇所を箴言1章7節と想定することは妥当である。しかし、この箴言1章7節については考慮すべきことがある。箴言1章7節は、以下のように邦訳されている。

1　廣川洋一『プラトンの学園アカデメイア』岩波書店、1980年、104頁。
2　シュテッケルベルガ『ただ神の榮光のために―カルヴィンの生涯―』新教出版社、1956年、195頁。
3　カルヴァン著作集刊行会『カルヴァンキリスト教綱要』Ⅲ/1、渡辺信夫訳、新教出版社、1963年、55頁。
4　『カルヴァンキリスト教綱要』Ⅱ、74頁、Ⅲ/1、55頁、Ⅲ/2、19頁。

エホバを畏るるは知識の本なり、
愚なる者は智慧と訓誨とを軽んず。[5]　（文語訳）

主を恐れることは知識のはじめである
愚かな者は知恵と教訓を軽んじる。　（口語訳）

主を畏れることは知恵の初め。
無知な者は知恵をも諭しをも侮る。　（新共同訳）

主を畏れることは知識の初め。
無知な者は知恵も諭しも侮る。　（聖書協会共同訳）

当該箇所のマソラ本文（*Biblia Hebraica Stuttgartensia*）は、前半の下線部を *dāʿaṯ*（知識）、また後半の下線部を *ḥoḵmâ*（知恵）と記している[6]。因みに、詩篇 111:10，箴言 2:9，15:33，ヨブ 28:28 における「知恵」と邦訳されている語のマソラ本文は *ḥoḵmâ* である。すなわち、箴言 1 章 7 節前半部の直訳は「主を畏れることは知識（*dāʿaṯ*）の初め」となる。なぜ、カルヴァンは「主を畏るるは知恵の始めなり」の聖句出典として箴言 2 章 9 節ではなく箴言 1 章 7 節を挙げたのであろうか。

『キリスト教綱要』冒頭に記されたフランス国王フランソワ一世献呈の辞の日付は 1536 年 8 月 1 日である。前年の 1535 年には『キリスト教綱要』を書き上げていたと考えられる。カルヴァン 26 歳の年である。身辺の多忙さのゆえであろうかラテン語初版の母語フランス語版は刊行されなかった。フランス語版は『キリスト教綱要』ラテン語第二版 1541 年以降である。カルヴァンは、オルレアン大学在学時にヴォルマール教師からギリシャ語聖書研究を学んだ。ヴォルマールは旧約聖書を学ぶ努力をしていた。ブルージュ大学転学卒業後、王立教授団のヴァッタブルからヘブル語を学び、独学でタルグムなどの学びをした。1534 年、カルヴァン回心経験の翌年にテクストゥス・レセプトゥスやヘブル語原典に基づくルタードイツ語訳聖書未製本完全原稿が提示された。ルターは、最後の修

[5] 元訳聖書で「エホバ」と訳出されている原語の יהוה (*yhwh*) は、神の高貴な名前であるが故にユダヤの伝統では直接音読することはせずに אֲדֹנָי (*ʾăḏōnāy*) の単語を代替させて朗読した。テトラグラマトン יהוה (*yhwh*) は聖書の神の固有名詞であり、אֲדֹנָי (*ʾăḏōnāy*) は主人を意味する普通名詞である。紀元後、マソラ学者はヘブル語子音本文に母音や句読点を付した。特に、子音本文の יהוה (*yhwh*) には、読みの אֲדֹנָי (*ʾăḏōnāy*) の母音を付して יְהוָֹה と表記し、朗読時には יהוה (*yhwh*) を (*ʾăḏōnāy*) と朗読した。その後、キリスト者は、יְהוָֹה をユダヤ伝統の読みではなく綴り通りに発音し、*Yəhōwāh=Jehovah*「エホバ」と音読したのである。今日の邦訳では יהוה (*yhwh*) を「主」と表記している。

[6] יִרְאַת יְהוָה רֵאשִׁית דָּעַת חָכְמָה וּמוּסָר אֱוִילִים בָּזוּ׃

正を 1545 年に施している[7]。他方、1545 年にはヘブル語原典を底本とするオリヴェタン仏訳聖書も出版されている。カルヴァンは、1535 年バーゼルで刊行されたにミュンスター版ヘブル語原典、タルグム（アラム語註解）、70 人訳（ギリシア語訳）[8]、ヴルガタ（ラテン語訳）[9] などを参照していたと想定される[10]。カルヴァンが、ヘブル語原典の釈義に基づくイザヤ書や創世記や詩篇の註解書を発行するのは 1552 年以降のことである。『キリスト教綱要』を執筆した頃は、ヘブル語原典による聖書解釈黎明の頃であり、70 人訳旧約聖書やラテン語訳ウルガタをヘブル語原典と同等に引照していたと想定される。70 人訳とラテン語訳はともに箴言 1 章 7 節前半部を「主を畏れることは知恵の初め」と訳出しており、カルヴァンは「主を畏れることは知恵の初め」の聖書出典箇所として箴言 1 章 7 節を挙げることに違和感がなかったものと推察される。

今日の日本においても創立の理念が掲げられている事例がある。例えば、国立国会図書館東京本館のホールに日本国憲法制定時の憲法担当国務大臣で国立国会図書館初代館長の金森徳次郎筆跡による「真理がわれらを自由にする」が掲げられている。これは、国立国会図書館法前文「真理がわれらを自由にするという確信に立って、憲法の誓約する日本の民主化と世界平和とに寄与することを使命として、ここに設立される」との創設の理念から引用されたものである。因みに、「真理がわれらを自由にする」は、ヨハネ福音書の「あなたたちは真理を知り、真理はあなたたちを自由にする」（ヨハネ 8:32）と共鳴する。

ドイツ改革派教会と海外宣教

1546 年、ドイツ南西部プファルツ選帝侯フリードリッヒ 3 世はルター派を採用したがその後カルヴァンの聖餐論を採用し、1563 年にはドイツ語ハイデルベルク信仰問答を発布するなど信仰の一致を図った[11]。他方、17 世紀末頃、ドイツ人やドイツ系スイス人の農夫や労働者たちは信仰の志をもってペンシルベニアに移住しフィラデルフィア近郊にジャーマンタウンを拓いた。1720 年代にはドイツ人改革派教会の群れが形成されフィラデルフィアに教会堂を得ている。M. シュラッターを牧師に迎えたドイツ改革派教会は教派の群れをさらに成長させ、1774 年には三千席を擁する大会堂を建てた。やがて、ドイツの伝統を継承する神学校が創設され、1843 年新進気鋭の神学者フィリップ・シャフがマーサーズバーグの合衆国ドイツ改革派神学校教授に着任した。前年に出版された『アン

---

7 因みに、*Luther Bibel 1545* の箴言 1 章 7 節前半部は、“Des HERRN Furcht ist Anfang der Erkenntnis” と独訳されている。

8 箴言 1 章 7 節前半部は、Ἀρχὴ σοφίας φόβος θεοῦ.

9 箴言 1 章 7 節前半部は、Timor Domini principium sapientiæ.

10 渡辺信夫「解題」『カルヴァン旧約聖書註解創世記 I 』新教出版社、1984 年、7-8 頁。

11 フリードリッヒ 3 世は、説教者カスパール・オレウィアーヌス（1560 年 24 歳）と神学者ツァハリーアス・ウルジーヌス（1561 年 27 歳）の二人のカルヴィニストをハイデルベルクに招聘し、「ハイデルベルク信仰問答」の起草と編集にあたらせた。春名純人「解説」『改革教会信仰告白集』教文館、2014 年 302 頁。

クシャス・ベンチ』の著者 J. ネヴィンの協働者としてマーサーズバーグ神学を先導することになる。ドイツ語で行われたシャフの就任演説は翌年ネヴィンによって英訳され『教会の現状に関わるプロテスタンチズムの原則』の書名で出版された。神学校は、1871 年、ランカスターの地に最終的に移転しランカスター神学校と称された。このように合衆国ドイツ改革派教会の群れは、ドイツでのハイデルベルク信仰問答を告白する信仰を継承しつつ成長した。

1826 年合衆国ドイツ改革派教会全国総会は、アメリカ伝道協会を創設し、翌年外国伝道局を発足させた。南北戦争、マーサーズバーグ神学論争、アメリカ外国伝道協会からの離脱などの混迷によって長期間停滞していた外国伝道局は、1873 年、外国伝道活動開始のために刷新され、伝道候補地として日本を選択した。1878 年日本派遣宣教師第一号として A. グリングを選出した。グリング宣教師は、翌 1879 年 6 月に夫妻共々横浜に到着し、日本での活動を開始した。1883 年には二人目の宣教師 J. モールが夫妻で来日し活動を活発化させた。元大工町教会設立、番町教会礼拝開始、越ケ谷伝道など目覚しい成果を挙げた。1885 年 4 月グリングは、合衆国オランダ改革派教会宣教師バラと出会い、三人目の宣教師の活動地として仙台を紹介される。また、丁度上京していた仙台教会牧師押川方義とも会い協力関係を約束した。ランカスター神学校を 6 月に卒業したばかりの W. ホーイは、合衆国ドイツ改革派教会派遣三人目の宣教師按手を 10 月 15 日に受け、12 月 1 日には横浜に到着した。翌 1886 年 1 月 6 日の在日宣教師団会議は仙台での学校設立を決定し、同月 13 日に早くもホーイは仙台に着任している。

1884 年ミセス・グリングは二人の女性宣教師を日本に派遣するようにとの強い訴えを外国伝道局に書き送った。この訴えは公表され、数名の女性が応募した。1885 年 4 月、外国伝道局は、公立高校の教員をしていた E. プルボーと師範学校を卒業したばかりの M. オールトを女性宣教師に選出した。1884 年外国伝道局は、一人の宣教師の募集をも発表していた。それに応じたのが 1882 年に既に宣教師になることを決心していたホーイだった。彼は神学校での学びの後直ちに日本に向け出発したのである。ホーイと押川は、1886 年 5 月に木町通りと北六番丁角の借家に六人の生徒を集め、仙台神学校の講義を始めた。既に、同 10 月 11 日清水小路に開校された新島襄の宮城英学校（東華学校）に男子普通教育の道を譲っていたのである。

外国伝道局は女子教育の学校設立を期し、それまで財政難のため派遣延期をしていた女性二人の宣教師を派遣することにした。二人は、1886 年 6 月 1 日ペンシルベニア州ハリスバーク市セイラム改革派教会での送別礼拝後、3 日には日本に向け出発した。7 月 2 日横浜港に着き女子学校設立候補地でもあった東京築地などを視察した。外国伝道局の意向を踏まえ熟考のすえプールボーはかねてよりホーイからの強い招聘のあった仙台を女子学校設立の地と決め、横浜から荻ノ浜・塩釜の海路経由で 7 月 16 日仙台に着任したのであ

る[12]。1886 年 9 月 18 日に松平正直宮城県知事より女学校設立が認可された。この日をもって宮城女学校が設立されたのである[13]。申請人は押川方義、校長はプールボー、教員はプールボーとオールトの 2 名だった。最初の生徒数 10 名はすぐに 16 名に増え、仙台における女子教育の重要性が外国伝道局に逐次報告された。キリスト教に対する時勢変容に伴い 1891 年 3 月東華学校が閉校となり、入れ替わるように 1891 年 9 月 11 日東北学院設置が認可された。東北学院設置申請者は押川方義、初代院長押川方義、副院長に W. ホーイが就任した。

このように宮城女学校と東北学院（仙台神学校）は、ハイデルベルグ信仰問答に告白された信仰を基盤とする合衆国ドイツ改革派教会の祈りと経済的援助によって創設されたのである。宣教師たちはドイツ改革派教会の信仰に養われ、献身し、その生涯を送った。例えば、プールボーは、宮城女学校第一回卒業生 4 名を送り出した 1893 年 6 月、使命を果たした区切りとして校長職を辞しアメリカに帰国した。彼女は、同年 11 月 2 日マーサーズバーグ中会に属する牧師サイラス・コート師と結婚し、その後牧師夫人として献身的に教会に仕えた。コート師の死から 7 年後、1927 年 4 月 26 日にプールボーは家族に見守られ波乱に満ちた 73 歳の生涯を閉じた[14]。他方、オールトは、宮城女学院着任の翌年 1887 年 7 月にその働きの場を女学校教師から宣教師夫人としての働きに移し、ホーイと婚約し、12 月 27 日に東京で結婚した。ホーイは、1892 年に開かれた東北学院開院式に理事長として演説を行い「…もしもキリスト教的な声が聞かれなくなり、キリスト教的影響がこれらの建物の中で支配的でなくなることがあるならば、破滅の手よ、すべての煉瓦を引き倒して、塵と化せしめんことを…」と述べ宣教師スピリットを開陳している。やがて、次第に押川との確執が深刻化し、健康上の理由もあり最終的にホーイは東北学院を辞職する[15]。1899 年 4 月ホーイ夫妻は、中国に向かって日本を離れる。1927 年帰米途中の船上で病死するまでホーイは中国伝道に専心従事するのである。その後のホーイ夫人のオールトは、長女ガートルドとともに再度中国に渡り、湖南省にホーイが残した学校と教会の事業に従事し、1935 年 12 月 5 日 74 歳の生涯を閉じている。

マーサーズバーグ神学は、様々な形で宣教師たちに影響を与えた。グリング宣教師とモール宣教師の間の宣教方策に関する摩擦や、グリング宣教師が帰国後に英国国教会に移籍し再度宣教師として来日し平安女学院や京都の聖公会教会の創設に成果をあげたことが挙げられる。また、1887 年に来日し、第二代東北学院院長として 50 年間にわたり学生の宗教教育を牽引した合衆国ドイツ改革派教会派遣六人目の宣教師 D. シュネーダーは、

---

[12] 『天にみ栄え―宮城学院の百年』宮城学院、1987 年 271 頁。

[13] 設置申請書に記されていた住所は東二番丁 51 番地。これは、仮校舎として借用した県会議員田辺繁久所有の別邸の住所である。翌年東三番丁の土地を購入し、1889 年には新校舎を完成させ、東三番丁の住所に移転した。『天にみ栄え』168 頁。

[14] 『E・R・プールボー書簡集』宮城学院、2007 年、278 頁。

[15] 『東北学院百年史』東北学院、1989 年、450-459 頁。

1933 年の日本基督教学校教育同盟夏期学校主題講演『学生の宗教運動』において「オックスフォード運動はキリスト教の近世史を飾るまことに麗しい青年運動、学生運動の長い行列の先頭に立つもの」と賛辞を述べている[16]。

既述のとおり、仙台における宮城女学校と仙台神学校（東北学院）は、横浜公会や新潟の医療宣教師 T. パームとつながる日本基督一致教會仙台教會牧師押川方義、合衆国ドイツ改革派教会外国伝道局派遣宣教師たちの働きによって創設されたのである。さらに正確に表現するならば、東北学院第 8 代院長田口誠一の言葉「創立者ではなく創立者たちが有していたキリスト教信仰を土台として創設された」のとおり、彼らが有していた信仰こそが学院創設の土台であり建学の理念だったのである。それが宮城学院と東北学院においてどのように継承されているかさらに概観する。

聖句とモットー

「Glory to God」

宮城女学校第一校舎講堂正面に掲げられていた聖句である[17]。第一校舎とは、1902 年に火難で失った創立時の校舎（1889 年献堂）を 1904 年に再建した校舎のことである。建築総監督の W. ランペ宣教師は、献身的で信仰的な仕事ぶりを発揮し、工期と予算の節減に努めて完成させた。合衆国改革派教会外国伝道局長による 1905 年の報告において、第一校舎講堂は a large chapel と紹介されている[18]。講堂では、聖書が読まれ賛美歌が歌われ、様々の式典が執り行われた宮城女学校中枢の場所だった。その正面に刻まれていたのが「Glory to God」だった。

「Glory to God」は、アブラハム（ロマ 4:20）[19]や天の大軍（ルカ 2:14）[20]によって賛美され、天使が「神を畏れ、その栄光をたたえなさい」と命じた句である（黙 14:7）[21]。また、カルヴァン神学の要約である 5 つのソラの一つのソリ・デオ・グロリア（Soli Deo gloria）「神の栄光のみ」〔神にのみ栄光を〕やヨハンセ・バスティアン・バッハのほとんどの自筆譜の最後に記された「SDG」が想起される。「Glory to God」は合衆国ドイツ改革派教会の信仰を象徴していると推察される。今日「Glory to God」は『宮城学院教職員礼拝説教集』表紙を飾り、また宮城学院広報誌の誌名『Glory to God』になっている。さらに、旧制二

[16] 『シュネーダー説教集』東北学院、1971 年、276 頁。
[17] 『宮城学院 目で見る 120 年』宮城学院、2006 年、21, 24, 33 頁。
[18] 『天にみ栄え』374-6 頁。
[19] δοῦς δόξαν τῷ θεῷ (giving glory to God)
[20] δόξα ἐν ὑψίστοις θεῷ (Glory to God in the highest)
[21] φοβήθητε τὸν θεὸν καὶ δότε αὐτῷ δόξαν (Fear God and give glory to Him)

高の教授を務め大正年間に宮城女学校専攻科で英文学を講じた土井晩翠[22]作詞の宮城学院校歌の冒頭句「天にみさかえ、地に平和…」と共鳴し、宮城学院寄付行為前文「神を畏れ敬い、自由かつ謙虚に真理を探究し、隣人愛に立ってすべての人の人格を尊重し、人類の福祉と世界の平和に貢献する女性を育成する」との宮城学院「建学の精神」に通底している。

宮城学院創立の理念は、全学礼拝、学院礼拝、教授会開会礼拝、キリスト教（宗教学）講義などが形成する「全学に漂う雰囲気」として継承されてきた[23]。この雰囲気は、ホーイ宣教師の既述の言葉「キリスト教的な声…キリスト教的影響がこれらの建物の中で支配的…」の具体化である[24]。創立の理念は、2000 年 7 月 18 日の理事会において宮城学院の「建学の精神」およびスクール・モットー「神を畏れ、隣人を愛する」として成文化され制定された[25]。聖句引用については、「神を畏れ」が箴言 9 章 10 節、「隣人を愛する」がマルコ福音書 12 章 31 節とされている[26]。前者については既に論述したとおりで、後者の「隣人を愛する」は、新約聖書において 9 回記載されており、いずれもレビ記 19 章 18 節に基づいたものである[27]。創立の理念は今日の宮城学院に伸展している。

「地の塩、世の光」

建学の理念は、他方、東北学院では聖書の言葉をキャンパス内に掲げることによって継承された。例えば、箴言 1 章 7 節（中央図書館）、コリント第一 8 章 1 節（90 周年記念館）、マルコ福音書 10 章 44 節（押川会館）などである[28]。なかでも「地の塩 世の光」（マタイ 5:13-16）は、教職員在学生のみならず卒業生たちが自らを「地の塩の人々」と呼ぶ程の愛誦聖句である[29]。1931 年 1 月 24 日の夜、教員会に全院教職員を招集したシュネーダー院長は「基督教主義学校は危機に瀕している」との演説の中で「イエスは十二の使徒に『汝等は地の塩なり』と云い、又『汝等は世の光なり』と云われた。私共は断じて遅疑逡巡してはならない」と語りキリスト教学校教育の奮起を促している[30]。「地の塩 世の光」

---

[22] 「シオンの琴の震ふごと 天使の空をとぶがごと とはに新たにまことなる 光仰ぐもたふとしや」「愛と自由と平等の まことの光かゞやきて 天の王國來るとき 嗚呼其時をまちわぶる 友よもろとも手を引て薄暗の世をたどらまし。」土井晩翠『天地有情』［2016 年ゴマブックス］65 頁、74 頁。

[23] 社団法人日本私立大学連盟『建学の精神』1984 年、188-9 頁。

[24] 『建学の精神』189 頁。

[25] キリスト教学校教育同盟『加盟校の歩み―創立の礎』2011 年、16-17 頁。深谷松男「建学の精神が顕すものもの―二、三の覚書―」『宮城学院資料室年報 2014 年度』20、2015 年、1-22 頁。深谷松男『キリスト教学校と建学の精神』日本キリスト教団出版局、2000 年、38-45。

[26] 宮城学院キリスト教センター『学校法人宮城学院礼拝ガイド 2023』2 頁。

[27] マタ 5:43, 19:19, 22:39. マコ 12:41, 33, ルカ 10:27, ロマ 13:9, ガラ 5:14, ヤコ 2:8。

[28] 『建学の精神』269 頁。

[29] 『東北学院の 100 年』東北学院、1986 年、128 頁。カルダイ社編集部『ああ東北学院“学院”なくして東北の今は語れない』1979 年、80 頁。河北新報社編集局『―東北学院 100 年―われら地の塩』1986 年、5 頁。

[30] 『東北學院七十年史』1959 年、550 頁。

は、後に倉松功院長揮毫の扁額として泉キャンパス図書館入口に掲げられ、また、2017年東北学院土樋キャンパスにて開催されたキリスト教学校教育同盟第105回総会開会礼拝説教での聖書箇所とされた[31]。「地の塩の人々」は、この世を明るくする光でもある。「地の塩 世の光」の聖句は青山学院のスクール･モットーになり[32]、また、四国学院のユニバーシティ・モットー「Vos estis sal terrae」〔汝らは地の塩 マタイ福音書5:13〕として校章に刻まれている[33]。

「Life Light Love」

1922年、東二番丁に再建された東北学院中学部校舎の南正面入口真上に刻み込まれた言葉で、爾来3L精神として生徒たちの精神的シンボルになった句である。三語の組合せの意義、また誰が選んだものかは不明である[34]。シュネーダー院長の手紙や公的書類に言及はない。また、「信仰希望愛」がコリント信徒への手紙13章13節を連想させるように「Life Light Love」が連想させる聖書箇所はない。話者や本文の同定が不確かな句の釈義においては、読者志向の意味を読み込まないようにする慎重さが求められる。僅かに、日本基督教会東北中会機関誌『神と人』第17号（1923年）に掲載されたシュネーダー院長による「生命（いのち）、光明（ひかり）、愛」と題した記事に「Life Light Love」の意味が暗示されている[35]。第一は、生命について。普通の肉体的生命でなく、イエスキリストによって現れた生命のこと。すなわち、聖書にある永遠の生命のことである。第二は、智識の光明について。普通の智識ではなく、イエスキリストが「我は世の光明なり」と言われたその光明を所有する人格者となり広く世に伝え永久に輝くように努める必要があると解説されている。さらに、愛についてはドラモンドの著書『世界に於ける最大のもの』を参照しつつ「愛の精神に満ち溢れて、真心から奉仕を喜ぶ人物は日本の将来のため何よりも必要である」と説いている[36]。

1919年の仙台大火によって壊滅した中学部校舎再建のために宣教師シュネーダーは翌年単身渡米し、合衆国ドイツ改革派教会全国総会で募金を訴えた。3年越しの辛苦を経ての再興である。その校舎正面入口真上に「Life Light Love」が掲げられたのである。三文字の提案者がシュネーダー院長であるならば、手紙や公文書類に全く記録がなく『神と

[31] 佐々木哲夫「地の塩世の光（マタイによる福音書5章13-16節）」『命のファイル』教文館、2019年、196-198頁。
[32] 青山学院宗教センター『地の塩、世の光―人物で語るキリスト教入門―』教文館、2006年、211頁。『加盟校の歩み―創立の礎』45頁。
[33] 『加盟校の歩み―創立の礎』168頁。
[34] 『東北学院百年史』564頁。
[35] 「同上」
[36] ヘンリー・ドラモンド（1851-1879）スコットランド出身。グラスゴーのフリーチャーチカレッジの自然科学教授。愛に関して学生に語った説教が『世界最大のもの』の題で出版され英国のみならず広く世界の国々で読まれた。ヘンリー・ドラモンド『世界最大のもの』いのちのことば社、1998年［初版本1874年］、5-50頁。

人』の記事に関連聖句の言及が全くないことに違和感を覚える。しかし、シュネーダー院長以外の誰かが建築設計図面に三文字掲示を提案したとしても、そこに合衆国ドイツ改革派教会の海外伝道スピリットに通じる文化的文脈が通底していたことは想定可能と思われる。合衆国ドイツ改革派教会が初期に所属していた合衆国改革派教会の機関誌『The Missionary Guardian』の表紙に記されていた句が“LIFE, LIGHT AND LOVE FOR THE WORLD”である。マルコ 16 章 15 節の併記もあり宣教師たちの矜持が暗示されている[37]。

2020 年に東北学院のスクール・モットーに定められた Life Light Love の三文字は、クルト・ロイバー（Kurt Reuber,1906-1944）の描いた塹壕の聖母像を想起させる[38]。牧師と医師の資格を得たロイバーは、ナチスによる 1942 年のレニングラード攻防戦に軍医として従軍させられ、その後ロシアの捕虜となりウラル地方の収容所に入れられた。その間に聖母子像を 1000 点ほど描いている[39]。そこには、LICHT LEBEN LIEBE の三文字が記されていた。ロイバーは、神秘主義を主題とした論文でマールブルク大学から神学博士号を得て、ミカエル同胞団に加入している[40]。ドイツ神秘主義に連なる敬虔的信仰を有していたと思われる。中世ドイツ神秘主義者を紹介する W. R. Inge の著書名が『LIGHT, LIFE, AND LOVE』であることもドイツキリスト者に通底する信仰文化的文脈への示唆を与えてくれる[41]。

以上論考してきたとおり「建学の精神」や「スクール・モットー」は多様であるが、いずれにしても創立の理念は教育機関の教育目標であり、神と人とに祝される自律自存の優れた人材を育成する教育の土台として世代を超えて継承されるべき価値観である。

『2023 年度宮城学院資料室年報–信望愛 –』について

本年度は 6 本の原稿が寄せられた。藤沢智子氏は、1979 年に宮城学院女子短期大学教養科をご卒業後ただちにアナウンサーとして東北放送に入社されアナウンス部長など種々重職を歴任、2021 年より東北放送株式会社非常勤取締役および tbcAz 株式会社初代社長に就任され現在に至っている。2023 年 9 月 16 日の宮城学院創立記念講演会において「私と宮城学院」との題で東三番丁キャンパスや男女平等に変革する社会での経験についてご講演をいただいた。本稿はその講演の記録である。宮城学院での学びが女性の社会参画に貢献したとの講演内容に励まされた次第である。

---

[37] 「―命と光と愛を世界のために―LIFEW LIGHT AND LOVE FOR THE WORLD」『後援会通信 GROWTH』VOL. 2,2003, 13 頁。
[38] 『東北学院百年史』565-7。
[39] 場崎洋『塹壕の聖母』ドンテ・ボスコ社、2011 年 62-3 頁。
[40] “Kurt Reuber,” *Wikipedia* [https://de.wikipedia.org/wiki/Kurt_Reuber].
[41] W. R. Inge. Createspace Independent Publishing Platform, 2015. *LIFEW LIGHT AND LOVE-Selections from the German Mystics of the Middle Ages by W. R. Inge (1860-1954)*.

小羽田誠治先生「宮城学院女子大学における『自校史教育』の実践―コロナ禍での出発」は、2020 年より開始された科目「自校史教育」の開設経緯、講義内容、成果および展望についての論考である。「自校史教育」が宮城学院建学の理念を今日に継承する貴重な学びであることを教えられる。

松本周先生「三浦綾子の死生観とキリスト教信仰」は、1968 年に宮城学院同窓会主催講演会に来学され講演「私を変えた愛」を担当された作家三浦綾子の作品をキリスト教神学の視点から分析した論考である。三浦綾子の実存的経験における死から生への意識が犠牲の認識、特に十字架の信仰へ到達していることを明らかにしている。

佐藤亜紀氏「宮城女学校第 7 回生の夫たち―顔写真特定と目歯比率―」は、第 7 回生 5 人の卒業写真と晩年の顔写真の目歯比率照合によって人物特定を試み、また配偶者たちの生き方の概観によって、卒業後の各人の人生に思いを馳せたものである。同氏「宮城女学校の戦時期学籍簿の検討（2）―成績表と学科目の推移―」は、昭和 12 年から 16 年の成績表の概観、例えば、「聖書」の科目欄が削除されたこと、また随意科目とされた英語が家政科被服との選択制になったことなど、授業科目が時局悪化と関連していることを推察する。学籍簿に関する昨年度の論考に引き継いでの原稿である。

栗原健先生・木村春美先生「宮城学院の植物たち その 4 ―ツリバナ―」は、水の森公園に連なる桜ヶ丘キャンパスの豊かな自然を紹介する連続稿である。植物は、聖書の使信に深く関係するだけでなく宮城学院女子教育の清々しさをも象徴する。末筆ながら『2023 年度宮城学院資料室年報―信望愛―』にご寄稿くださった皆様の熱意とご労苦に感謝の意を表するものである。宮城学院の歴史の調査研究・記録保存は、宮城学院資料室に託された時空を超越する使命であり引き続き皆様のご支援をお願いする次第である。

2023年度宮城学院創立記念講演　「私と宮城学院」

tbcAz株式会社代表取締役　藤沢 智子

2023年9月16日（土）宮城学院礼拝堂

南町通りから東三番丁に入り、人々でにぎわう朝市を横目に宮城学院の西門に向かう。するとこれから一緒に試験を受けるはずのクラスメイトがこちらに向かって歩いてきて、おーちゃん（私の愛称）どうしたのよ？みんな心配してたんだよ！えっ？試験は？何言ってるの！今試験終わったとこだよ。そうです。まさかの勘違い。現代文学の試験の時間を私は見事に1時限間違えたのです。一瞬頭が真っ白になり立ち尽くす私。教授に事情を話して何とかしてもらったらと友人に促され、慌てて教授の元へ向かい平謝り。この単位を落とすわけにはいかない！！必死に頭を下げ、何とかレポート提出でお許しを頂き、事なきを得たのでした。大事な試験の時間を間違えるなど、おっちょこちょいにもほどがある、今思い出しても恥ずかしい思い出です。

私が宮城学院女子短期大学に入学したのは、1977年昭和52年。市電こそ無くなっていましたが、仙台の町はさほど高層ビルもなく、その年の暮に新仙台駅が開業するなど、今とは違う光景が広がっていました。いつも支倉焼の甘い香りに包まれながら学校へ通っていた私たち。宮城学院自体はすでに今の場所（桜ヶ丘）への移転が決まっていて、私たちは新しい校舎には行けないのねと友人と残念がったことを覚えています。当時の私たちは、体育の授業ともなるとバスに揺られて愛子の体育館まで行かなければならず、バスに乗り遅れたらアウト！タクシーで駆け付けた人が居たとか居なかったとか。今となっては、それも懐かしい思い出です。

東三番丁校舎時代の宮城学院（中央）

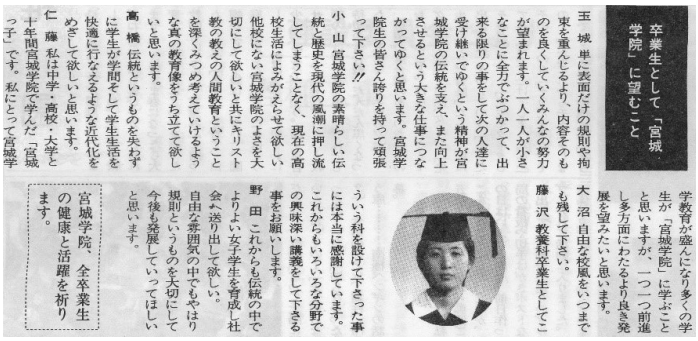
愛子にあった体育館

そもそも私が宮城学院の短大を目指したのは、その先に目標があったからです。小学校の頃からアナウンサーになりたいと思っていた私は、公立の高校で放送委員会に所属し、NHK のコンクールに参加するなどし、益々その思いを強くしていました。高 2 の時たまたま地元の TV 局で、新しい番組のアシスタント募集があり、何かのきっかけになればとオーディションを受け、1 年半ほど今のイービーンズ（当時のエンドーチェーン）一階のサテライトスタジオで毎週日曜日に放送されるテレビ番組のアシスタントを務めていました。スタッフとも打ち解け、アナウンサーを目指していると告げると、うちは短大出じゃなきゃ取らないよの一言、それなら短大に行きます！と、その時進路は決まりました。もともと四つ上の姉は、高校から宮城学院に入り大学も英文学科でした。私の高校受験の時の所謂すべり止めも宮城学院でしたから、迷うことはありません。ただ、これと言って得意科目も、学びたいこともなかった私は、教養科文化コースを選択。広く様々な分野が学べる私にとってはぴったりの科でした。女子大ならではの落ち着いた雰囲気と友人たちとののびのびとした学生生活は、あっという間でした。そんな中、一番の思い出は大学祭です。1 年時に友人何人かと実行委員会のメンバーとして活動したのですが、その時企画されたコンサートが、達郎さんご本人もコンサートなどで度々触れていますが、吉田美奈子と山下達郎バンド出演の Twilight Concert でした。あの石造りの大講堂は、観客でびっしり埋まり溢れるほど。あまりに人が入りすぎて 2 階が崩れるかも・・・と連絡が来て、影アナ担当の私が急遽ステージに上がり、二階席の観客に降りるよう促す場面もありました。後日知ったことですが、当時の達郎バンドのメンバーは、キーボードが坂本龍一、ドラムが村上ポンタ秀一、ギター高中正義、サックス土岐英史、ベースが岡澤章と言う錚々たる顔ぶれ、今となっては実現困難な凄い組み合わせだったのです。準備は連日深夜にまでおよび、それでも学部を超えて先輩たちとともに作った大学祭は、学生時代の唯一の思い出です。

大学祭のパンフレット

卒業の年、昭和 54 年はキャリアウーマンという言葉が流行した年ではありますが、まだまだ社会における女性の地位は確立されておらず、大学を出て就職するのはなかなか大変な時代でした。私の友人も和文タイプの資格を取ったり、事務系の就職に備えていました。私はと言うと、とにかく地元の局に入りたいと、母も協力してくれて独自の就職活動（簡単に言えばコネづくり）に必死でした。とにかく受験できなければ先はありません。そんな時唯一全く伝手がない東北放送の求人が、大学の掲示板に載ったのです。私は学校推薦を受けるべく早速申し込みました。どれほどの希望者がいたのか、最初から二人しかいなかったのか定かではありませんが、私ともう一人が受験することになりました。東北

放送の学校推薦を取り付けた事で、晴れて民放3局（当時はまだ民放は3局しかありませんでした）受験できると思っていたら、なんと本命の局が今年はアナウンサーの採用無しとの事、がっかりしていると局の方から、事務職で入っても異動できるからと宥められ 、一般事務で受験。他の2局はアナウンサーとして受験しました。筆記にカメラテスト、フリートークに面接。カメラテストの控室は全国から志願したそれこそ垢抜けした女子大生がずらり。仙台から一歩も出たことのない田舎者の私は、こりゃだめだと早々に白旗を上げあきらめムード。しかしその開き直りがかえって良かったのか、なんと一番縁のなかった学校推薦のtbcから内定をもらい、アナウンサーとして入社する事となったのです。そして、tbcが唯一ラジオ、テレビの兼営局だったこと、これが私のアナウンサー人生にとっては大きな意味を持つことになるのでした。まだまだ女性は結婚したら仕事を辞める所謂寿退社が当たり前の時代に、tbcには結婚し子を産み働き続ける先輩が大勢いました。そんな先輩方は、二十歳そこそこで右も左もわからない私を暖かく迎え入れ、とにかく働き続けなさい、やめてはダメ、結婚しても子供を産んでもとにかく男性と同じように働き続ける事、それが女性の地位向上につながるのだと教えてくれました。その背景には、定年や、昇進など男女の差別をなくすべく戦ってきた先輩たちの歴史があったのです。入社当時、アナウンサーの仕事だけを見ても、ニュースを読むのは男性アナ、女性アナは天気予報や季節の話題などやわネタと呼ぶものしか担当できませんでした。今でこそ女性ニュースキャスターなど当たり前ですが、ほんの40数年前は、夕方のローカルニュースでさえ、スタジオに男女並んで座っていても、オープニングに挨拶をするのは男性キャスターのみ。女性はあくまでアシスタント的役割しか与えられていませんでした。しかしその後、時代の変化とともに女性の活躍の場も増え、男女雇用機会均等法ができ、男女の差別なく仕事ができる環境が徐々に整っていったのです。tbcでも、女性にもニュースを読んだりデスクを担当させてほしいと先輩方が声を上げ、漸く女子アナもニュースが読めるようになりました。その代わりそれまで男性が担っていた泊まり勤務のシフトに女性も組み込まれ、もちろん私も宿直勤務を経験しました。当時は慣れない事におどおどしたり失敗したりすると、だから女は…と言われそうで、常に気を張って仕事をしていたような気がします。まさに男性中心の社会から、男女平等の社会へ急激に変化する時代の中で、私の社会人生活は進んできたように思います。



卒業生として「宮城学院」に望むこと

玉城　単に表面だけの規則や拘束を重んじるより、内容そのものを良くしていくみんなの努力が望まれます。一人一人が小さなことに全力でぶつかって、出来る限りの事をして次の人達に受け継いでゆくという精神が宮城学院の伝統を支え、また向上させるという大きな仕事につながってゆくと思います。宮城学院生の皆さん誇りを持って頑張って下さい〃

小山　宮城学院の素晴らしい伝統と歴史を現代の風潮に押し流してしまうことなく、現在の高校生活によみがえらせて欲しい。他校にない宮城学院のよさを大切にして欲しいと共にキリスト教の教えの人間教育ということを深くみつめ考えていけるような真の教育像をうち立てて欲しいと思います。

高橋　伝統というものを失わずに学生が学問そして学生生活を快適に行なえるような近代化をめざして欲しいと思います。

仁藤　私は中学・高校・大学と十年間宮城学院で学んだ「宮城っ子」です。私にとって宮城学

大沼　自由な校風をいつまでも残して下さい。

藤沢　教養科卒業生としてこういう科を設けて下さった事には本当に感謝しています。これからもいろいろな分野での興味深い講義をして下さる事をお願いします。

野田　これからも伝統の中でよりよい女子学生を育成し社会へ送り出して欲しい。自由な雰囲気の中でもやはり規則というものを大切にして今後も発展していってほしいと思います。

宮城学院、全卒業生の健康と活躍を祈ります。

宮城学院広報（S54年3月1日発行 第21号)「卒業生に聞く」

私は女子アナと呼ばれることにとても違和感がありました。女子、男子関係なく、性別を超えて、一人の魅力ある

最初のニュースキャスター時代

アナウンサーとして見てもらいたい！いつもそう思っていました。その為には個性が大事。私にしかないものは一体何なのか？と随分悩みました。そしてそこから自分探しが始まりました。自分が何者なのか、何を考え、何に感動し、何を思うのか？そして何をすべきなのか？人と違うところはどんなところ？素晴らしい先輩の姿を追いながら、模索する日々でした。当時の先輩たちはそれぞれ得意分野を持ち、声も喋り方も話題もとにかく様々で本当に個性豊かでした。私も何か先輩たちには無い特技を持たなければ！そんなとき出会ったのが仙台弁です。地元出身とはいえほとんど知らなかった郷土の言葉をラジオで共に学ぶというコーナー「初級仙台弁講座」を提案し、午後ワイドのコーナーとして始めると、瞬く間に人気となり、女子アナではなく、藤沢アナウンサーと名前を覚えてもらえるようになりました。毎週資料首引きでテキストを作り、講師役を務めるのは大変でしたが、私自身も方言、仙台弁の魅力にどんどん引き込まれました。この仙台弁との出会いがなければ、今ここに私は居ないかもしれません。

そこからは時代の流れもあり、午後ワイドのメインパーソナリティーやニュースキャスター、特番の MC などこれまで主に男性が担当してきた数々の番組を担当させてもらいました。会社は、仕事は、辞めなければ続けられます。しかし私は年齢を重ねるにつれ、それで良いのか？とも考えるようになりました。組織ですから、無尽蔵に人を採用するわけにはいきません。欠員が出なければ、新しい人をなかなか採用できない。だからこそ、居ても良いアナウンサーではなく、居てほしいアナウンサーとして居続けたい、いつもそう思っていました。ですから、周りの評価はさておき、パーソナリティ、キャスター、デスク、ナレーション、どんな仕事も全力でやってきたつもりです。

均等法以降の世の中の変化に乗じて、震災の前年初の女性アナウンス部長となりました。アナウンス部は社内でも結構な大所帯、これまでの先輩たちのように個性溢れるアナウンサーを育てるにはどうしたら良いのかなどと考えていた年度末間近の 2011 年 3 月。あの日を迎える事となったのです。東日本大震災です。3 月 11 日（金）はひどい風邪をひいていましたが、何とか午前の生放送を終え、午後は 4 月入社の新人アナウンサーの研修中でした。tbc の旧社屋 5 階の会議室は、これまで経験したことのない揺れに襲われ、立っていられないほどでした。しかし、ラジオの災害報道を担うアナウンス部の責任者として、一刻も早く別棟にある情報センターに駆け付け、情報発信に努めなければなりません。新人には揺れが収まってから来るようにと伝え、大きな揺れの中倒れているロッカーを飛び越え右に左にと壁にぶつかりながら、情報センターに辿り着きました。そこから tbc ラジオの 256 時間に及ぶ震災報道は始まったのです。全戸停電になり辺りは真っ

暗、幸い自家発電もあり放送は続けられましたが、何がどうなっているのかなかなか把握できない中、必死に情報を伝え続けました。果たしてこれが現実なのか、そんなことを思いながら、マイクの前で喋り続けました。今思えば、あーすればよかったこうすべきだったなど、決して十分な放送ではありませんでした。それでも後日、あの時ラジオだけが頼りだった、藤沢さんの声を聴いて安心したなど、多くの方に声をかけられ涙ぐむ人もいて、私がここまで仕事を続けてきたのは、この為だったのかもしれないと改めて思ったのでした。そして、人の声の持つ力にも気付かされました。その他にも、震災は私に様々な気付きをくれました。どんなに技術が進歩し利便性が向上しても、自然の驚異には抗えない事、日々口にするもの、手に取るものは、必ず誰かの手を経て私たちの元へ届けられていること、人は一人では生きていけない事、そして何より人の命はかけがえのないものであること。それまで忘れていたあるいは知らなかったことの多くに気付かされました。だからこそ、私たち放送に携わる者は、常にあらゆる事を見方を変え角度を変えながら、その真実に迫るべく伝え続けなければならない事。そして、またいつ何時起こるかもしれない災害に、どう備えるべきなのかを伝え続けなければならない事を。震災から 12 年ライフスタイルは日々変化しています。その変化に私たちは対応できているのか、自問自答する今日この頃です。

震災後、私個人にも変化がありました。長年在籍したアナウンス部を離れ、ラジオ局長というポジションに付きました。社内の幹部の一人として、企業にとっては重要な営業成績や収支、ラジオの編成や番組の事、局内の人員配置、そしてラジオの将来について責任者として考え、局員を引っ張っていかなければなりません。正直アナウンサー時代には、見たことも聞いたこともない数字や書類だらけ。黙々とパソコンに向かう社員達を見てこれが一般の会社というものなんだなと、同じ会社の社員を見て思った事を鮮明に覚えています。ただそこでも、女性だからとかアナウンサー上がりだからと言われたのでは、あとに続く人が出てきません。泣きたい気持ちをぐっとこらえ、ひたすら学ぶ事に徹しました。そして、思いがけず今度は役員に！これこそが初です。これまで女性の局長は居ましたが、役員は初です。在仙の局でも早い方でした。しかし、営業経験も報道経験も制作経験もない、アナウンサーしかやってこない私に何ができるのか？これまた悩みました。しかしどんな仕事でも仕事は仕事、何より組織の仕事で一人で完結出来る仕事などない、とすれば常に情報共有を心掛け、互いが働きやすい環境を作ること、経営陣が思い描く会社の将来をわかりやすく現場に伝えるパイプ役を担えばよいのではないか、出来ることを一つひとつやっていけば大丈夫と己に言い聞かせながら、何とか務めました。一方組織で考えると、幹部

ラジオカーでのインタビュー

に一人でも女性が入ることで、ついつい男性寄りの判断になりがちな流れに歯止めをかけることができる、会議の際の個々の発言も配慮という一文字が加わって違ってくるという点は重要です。均等法以降意識が変わってきたとは言え、まだまだ本音で言えば納得していない男性も多い中、会議や公式の場に女性が入ることの意味は大きいものです。東京オリンピックの際に、総理経験者の何気ない（本人曰く）一言が、物議を醸した事がありましたが、まさにあれが現実でしょう。本当の意味で変わるには、まだまだ時間がかかると思います。だからこそ、もっともっと女性が様々なシーンに参画しなければいけないと強く感じています。それも、男性のように働く女性ではなく、あくまでフラットな視点で、性別も障害のあるなしも関係なく、誰もが普通に働ける環境を考えられる一人として。最近は、子供を産まない選択をする女性も増えていると聞きます。結婚はするけれど子どもを産まない、子を産むことは敗者で、産まない選択をすることが勝者なんだと主張する若い人もいるとか。私は一人しか生んでいませんし、子育ても決してうまくいったとは言えません。それでも子供を産み育てることで、初めてつま先立ちではなく地に足をついて歩き始めたと感じたものです。それだけ子を持ち育てる事は素晴らしい経験でした。少子高齢化が一段と進んでいく中で、未来を担う子どもを産み育てる事を、敗者勝者で切り捨てるのではなく、愛ある知性で考えて欲しい。自分を知り、他者を知り、共に生きる事に喜びを感じ、愛をはぐくむ。これこそ大事だと心から思います。

今回、このような機会をいただき、これまでの自分の歩みを振り返っておりましたら、tbc にアナウンサーとして入ったことも、アナウンサーとしてこれまで続けられたことも、女性初として新たなキャリアを経験したことも、すべての原点は、ここ宮城学院の学びにあったのだと気づきました。そして役員にならなければ、理事として宮城学院に関わることになかったでしょう。理事となり、大学要覧に書かれた建学の精神、そして「愛ある知性を。」の文章に触れたとき、これだと思いました。何故ならそれは、これまで私が心がけて来たこと、実践してきたこと、まさにそれだったからです。

宮城学院の建学の精神に基づいた長い歴史の中で育まれた教えに触れ学ぶ事で、私たちはとても深く大きな学びを得ていたのだと思います。

今もこのキャンパスでは、自然豊かな素晴らしい環境の元、多くの学生の皆さんが学んでいます。これからも若い学生さんたちが、「愛ある知性を。」身に着けこのキャンパスから飛び立ち仙台、宮城、東北、日本あるいは世界を、やさしさや思いやりに溢れた心豊かな社会にしてくださることを心から願っています。

創立記念講演

藤沢智子（ふじさわともこ）氏略歴

宮城県仙台市出身。
宮城学院女子短期大学教養科を卒業後、1979 年に東北放送株式会社にアナウンサーとして入社。
2010 年 4 月報道制作局アナウンス部長、2014 年 4 月ラジオ局長兼アナウンス部長を歴任。
2014 年 11 月公益財団法人仙台観光国際協会評議員に就任。
2015 年 6 月東北放送株式会社取締役に選出。取締役ラジオ局長に就任、tbc としては初の女性取締役となる。
2019 年 5 月学校法人宮城学院評議員就任。
2020 年 4 月にラジオ局・報道制作局・番組審議会を担務する取締役に専念。
2020 年 5 月学校法人宮城学院理事就任。
2021 年 4 月東北放送株式会社非常勤取締役となり、同時に tbc グループ 2 社が合併し誕生した tbcAz 株式会社の初代社長に就任し現在に至る。

宮城学院女子大学における「自校史教育」の実践
――コロナ禍での出発

小羽田誠治

はじめに

宮城学院女子大学（以下「本学」という）においては、2020 年度より「自校史教育」が開始された。本稿は、その科目の担当者である筆者が、科目開設に至る経緯、授業内容と方法、成果について報告し、カリキュラムにおける意義や位置づけについて考察するものである。なお、当該授業は、COVID-19 の流行に対応する本学の方針のもと、2020 年度および 2021 年度においては遠隔形式で実施し、2022 年度以降においては対面形式で実施している。前者と後者では、授業内容と方法において少なからぬ差異があるため、これをひとまとめにして報告することは避け、本稿では前者のみを対象とすることとする。副題として「コロナ禍での出発」と掲げた所以である。

1.「自校史教育」科目の開設まで

長い歴史を有する本学において、その歴史を体系的に学生に伝えることの必要性はつとに指摘されており、全学教養教育を担当する一般教育部においても、しばしば議論の俎上に上っていた。しかし、担当者やカリキュラムにおける位置づけが定まらないなど、実現に至っていなかった[1]。

そんななか、大学において様々な改革が進められるその一環として、全学教養教育の見直しが進められた。本学が以前から守り続けてきた「リベラルアーツ教育」をこれまで以上に充実させ、可視化しようとするものである。こうして、2020 年度入学生を対象に行われた学則改定において、本学の一般教育課程では、その部門の 1 つとして「リベラルアーツ基幹科目」というカテゴリーを新設することとなった。この科目（群）の位置づけについて、『2020 年度　学生便覧』では、以下のように説明されている[2]。

> リベラルアーツとは、人間が主体的に生きるために必要とされる知識や手法のことを指し、本学のカリキュラムでは、一般教育科目・専門教育科目を含めてリベラルアーツ教育を重視するものが少なくない。

1　たとえば､本学人間文化学科教授である大平聡が一般教育科目として「戦時下の宮城学院」をテーマとした講義を行っている例などはあるが、通史としてのものはないようである。

2　『2020 年度　学生便覧』（宮城学院女子大学、2020 年 3 月発行）

そのなかにあって、この「リベラルアーツ基幹科目」には、各学科の専門性に関わらず、より普遍的な意義をもつ講義科目が置かれており、それらを1年次後期から4年次前期にかけて継続的に学修するカリキュラムとなっている。これは、専門教育科目の学修を進めていくなかでも、常に広い視野を持ち続けた人間を育てるという、本学の理念に基づく。

本学の「リベラルアーツ基幹科目」は、学びの意義をより明確化するべく、全科目に通底する「三本の柱」を意識して構成している。即ち、「問う」「生きる」「創る」である。学問はただ学問のためにあるのではなく、学生各人のこうした根源的な行動に何かしらのヒントを与えるものであることを理解されたい。

ここで確認しておきたいのは、2020年度に新しく誕生した「リベラルアーツ基幹科目」において「問う」「生きる」「創る」という「三本の柱」を掲げたことにより、この科目の性質が明らかになるとともに、本学の一般教育部がこれまで実践してきたリベラルアーツ教育の方向性も可視化されたということである。

こうした議論は、自校史教育の推進に向けて追い風となった。なぜなら、それまでの一般教育課程のカテゴリーが「人文社会系科目」や「自然系科目」といった伝統的な分野によるものであったように、リベラルアーツ教育はどちらかと言えば「知識伝達」への志向が強かったのに対し、「リベラルアーツ基幹科目」においては、学習者の主体的な行動を促すことに重心がシフトしたからである。即ち、自校史教育は、「問う」「生きる」「創る」という「三本の柱」を体現するものとして、確固たる位置づけを獲得したと言える。こうして自校史教育は、具体的には2年次科目の「リベラルアーツ基礎D（MG史）」として、全学科に開講されることが決まった。ただし、「リベラルアーツ基礎D」にはいくつかのコースが設定されており、そのなかから1つを自由に選択するという類の科目であって、全学生対象の必修科目とはなっていない。

さて、2020年度からの新カリキュラムにおいて、「リベラルアーツ基礎D（MG史）」を開講することは決定されたものの、これは2年次科目であるため、当該カリキュラムでの実際の開講は2021年度からである。しかしながら、新カリキュラムの理念や自校史教育の位置づけが定まった2019年度の時点においては、一般教育部内ではむしろ一刻も早い開講を望む気運が高まっていた。そこで、旧カリキュラムのなかで、担当教員の専門性を発揮できる最も自由度の高い科目「特殊研究」（3・4年次科目）において、2020年度から同様の自校史教育を行うことが決定した。

以上のような経緯のもと、2020年度には旧カリキュラムのなかで3・4年次を対象に「特殊研究（宮城学院女子大学の歴史）」が、2021年度には3・4年次を対象に旧カリキュラムの「特殊研究（宮城学院女子大学の歴史）」を継続しつつ、2年次を対象に新カリキュラムの「リベラルアーツ基礎D（MG史）」が、開講された。本稿では、この3回の講義

についての実践報告を行う。

2. 2020年度の実施内容と成果

これまで体系的な自校史教育を行ってこなかった本学には、当然ながらこれを目的に編纂した「教科書」は存在しない。そこで、宮城学院創立100周年の1986年に、河北新報社が『河北新報』において連載した「光あおいで―宮城学院百年」を、当時の学院長である早坂禮吾がまとめた同名の冊子を教科書として使用することとした。また、授業内容に関わるシラバスは以下のとおりである。

授業概要	この授業では、宮城学院の創立から現在までの歩みを振り返る。 歴史とは本来、「お勉強」のための科目としてあるのではなく、人々の生きた営みの結果として紡がれてきたことを見返すことで、人や世の中を理解し、自分を理解するためにある。 皆さんが数年間すごしてきたこの宮城学院の歴史を振り返ることは、まさに自分の立ち位置を見直し、歴史を自分に関係するものとして実感することになるだろう。
到達目標	この授業では、以下の事柄を目指します。 1. 宮城学院が、誰のどのような思いでつくられたかを理解する。 2. 宮城学院が、どのような紆余曲折を経て今に至っているかを理解する。 3. 宮城学院の歴史のなかに自分を位置づけ、自分の道に誇りを持つ。 4. 宮城学院を理解することで、宮城学院のことを少し好きになる。
授業計画	第1回：導入、「ある同窓生」 第2回：「誕生まで」 第3回：写真で見る宮城学院史の概観 第4回：「授業開始」、「ストライキ」 第5回：「第一回卒業生」、「はね駒」 第6回：「女性校長」、「校舎全焼」 第7回：「日本人教師」、「ハンセン・リンゼー」 第8回：「文学会とクリスマス」、「ファウスト校長」 第9回：「試練の時代へ」、「戦時下」 第10回：「仙台空襲」、「再建」 第11回：「文化の殿堂」、「成長」 第12回：「桜ヶ丘へ」、「期にいたりて」 第13回：振り返りとOG職員への質問づくり 第14回：OG職員たちへのインタビュー 第15回：総括

教科書を順に解説していくという、いわゆる従来型の講義形式の授業であるが、工夫した点は以下のとおりである。

・歴史学を専門としない学科の学生が多く受講することを想定し、高校までの「暗記科目」イメージを払しょくするべく、成績はレポートによるものとした。

・歴史を暗記科目であると同時に「自分とは関係のないもの」と考えがちな受講生に向けて、各自が自らの人生とのつながりに気づけるような趣旨説明を前面に出した。

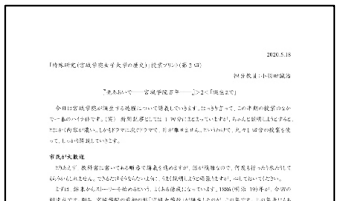
・教科書は創立 100 周年までの内容であるため、その後については OG 職員へのインタビューという形式で補うことを企画した。

このようにして臨んだ初めての自校史の授業であったが、前年度 2 月頃より、暗雲が立ち込め始めていた。言うまでもなく、世界を震撼させた新型コロナウイルス感染症の流行である。

2020 年度が始まって早々、本学も他大学同様、当面の間すべての授業を対面で行わず、遠隔授業を実施することを決定した。そして、その準備のため、5 月の連休明けまでの 1 ヵ月間を休講（夏休み期間に補講）とする措置を取ったのである。まさに出鼻をくじかれた思いであったが、やむなく授業方法を練り直すこととなった。

遠隔授業の具体的な方法は、各教員の裁量に任されていた。そこで、教科書を解説した文章を「講義録」として配布し、これを読ませることとした。受講生には教科書を事前に読んでもらい、さらに授業当日に配布する講義録を読み、意見・感想・質問等を提出させる、というものである。平素より学生の活字離れを心配する筆者としては、これも悪くない機会だと考えたのである。なお、第 3 回に予定していた「写真で見る宮城学院史の概観」については中止とし、以下を繰り上げたうえで第 14 回に総復習としてのクイズ大会を行うこととした（遠隔授業に習熟してきたため Zoom にて実施）。

受講者数は 4 月の段階で判明し、36 名であった。内訳は、現代ビジネス学科 4 名、教育学科 5 名、食品栄養学科 8 名、生活文化デザイン学科 5 名、日本文学科 5 名、英文学科 1 名、心理行動科学科 3 名、音楽科 5 名である。想定通り、歴史になじみのない学科の学生が大半であったため、いかに平易な説明で「読ませる」文章にするか、写真などもできるだけ使いながら、また教科書以外の関連する史料を紹介しながら、工夫を凝らして授業資料を作成した（下の写真は第 2 回の授業プリントと関連資料の一部）。



2020.5.18

『明治時代に宮城学院女子大学の歴史』授業プリント（第 2 回）

阿部俊雄（非常勤講師）

「考えないで――宮城学院百年――」コンセプト（概説文）

今回は宮城学院の誕生を起点について考えていきます。はっきりさせて、この学校の設定のルーツを辿ってみたいのです。（実）（略）明治時代には、1 回 90 分で話をしていますが、ちょっと説明しにくいので、だから内容は違うし、ほぼ同じ内容のプリントです。だが難しすぎる。ちょっとだけ、たった 40 分の授業を使って、もっと説明はしていきます。

宗教が大前提

まずはこれ。教科書に書いてある明治の宮城学院の歴史が、当時の時代背景のなかで、何度も何度も出てきたのに、ここまでは考えられていない。（実）（略）これは宗教とは何か、ということです。

この前、ある人がツイッターで呟いていた。こんな感じです。1886（明治 19）年に、ある宗教の創立者が、東京、宮城学院の前身の学校を創設したのが、この年です。この年、あの人物は、ほぼ死ぬ。一番下の底です。この時点では、宮城にも東京にもなかった。だから、この年にはまだ、この学校はいまだ存在しない――ということになります。でも、結果的に考えていくとこれは、とても大切なことです。

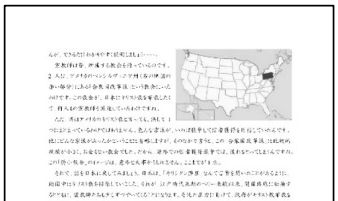
ちゆきの子（第 1 回）さんたちのお母さん（宣教師）が、お母さんたちの考えたようにやった。なぜかを考えていくと、教育だけじゃなくて、宗教がとても大切です。東北地域が日本全国（地域）のなかで、その最下の 1887（明治 20）年でしたので、始めて教会が建てられました。

さて、この考えは、アーロン・ポートルスというこの人物が、考えを進めて考えていくと、どこからどこへ大学になるんですか？ ポートランドは、ほぼ北米大陸西部にあります。全国規模でいうと、ちょっと北寄りでしょ？ ちょっと北寄りでは（笑）。この頃までは、アーロン・ポートルスという牧師が、この地域を担っています。

2 人は、北海道の函館の宣教師（略）。だから、人生の大事な時期を宮城学院に捧げたのです。ある意味から言えると、私たちの時代になっていますが、実際の考えからいえば、自分の考えを、私たちの時代の宗教の中に、はめ込んでいたのです。（略）。だから、この人がいろいろ考えて、その考えを、実際にやっていたのです。

この人物は、アーロン・ポートルスという牧師です。1 回 90 分、45 分の授業だけでは、説明しきれないのです。（略）。明治時代の宗教の考えを、ちゃんと説明しなければ、この学校の設立の考えは、わからないのです。

次の段落では、ポートルスの思想だけ。2 人が日本に来る前の「準備段階」の時期には、ほぼ分からないのです。――見捨てる。だから、ポートルスは、どうしたか？（笑）。ちゃんとしたことは、自信はないけど



が、でもなぜ日本から来て、函館にしたか……。

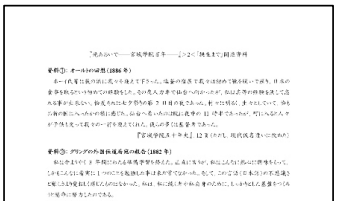
宣教師は、世界を宣教活動を行っていたのです。2 人は、アメリカのニューヨーク、ニューヨーク州（東の海岸）の海岸に近い宣教活動を、函館で行っていたのです。

だが、実は、ポートルスが、ちゃんと考えていたのは、ちゃんと考えていたのは、ポートルスは、ほぼ北米大陸西部の、ポートランドの出身でしたが、ポートランドは、ちゃんと考えていたのです。ほぼ北米大陸西部の、ポートランドの出身でしたが、ポートランドは、ちゃんと考えていたのです。

ポートルスは、函館の人たちを、ちゃんと考えていたのです。

ポートルスは、函館の人たちを、ちゃんと考えていたのです。

ポートルスは、函館の人たちを、ちゃんと考えていたのです。



「考えないで――宮城学院百年――」コンセプト（概説文）関連資料

資料①：オールトの肖像（1886 年）

オールトは、明治時代の初期に来日した人物です。1886 年に、宮城学院の前身である教会を創設した人物です。日本の教育制度のなかに、宗教がどのように関係したか、ということが、ちゃんと考えられていないのです。だから、宗教の問題を考えないと、宮城学院の歴史を理解することは、絶対出来ません。（実）（略）。オールトは、ポートランドの出身でした。ポートランドは、北米大陸の西部にあります。だから、ポートランドは、北米の西部にあります。だから、ポートランドは、北米の西部にあります。

資料②：ポートランドの外国伝道局の紋章（1882 年）

ポートランドは、ポートランドの外国伝道局の紋章です。ポートランドは、ポートランドの外国伝道局の紋章です。

ポートランドは、ポートランドの外国伝道局の紋章です。

ポートランドは、ポートランドの外国伝道局の紋章です。

――『宮城学院大百年史』12 頁（のち、現代風表書に改めた）

資料③：アリゾナの外国伝道局の紋章（1882 年）

ポートランドは、アリゾナの外国伝道局の紋章です。ポートランドは、ポートランドの外国伝道局の紋章です。

ポートランドは、ポートランドの外国伝道局の紋章です。

――『宮城学院大百年史』12 頁（のち、現代風表書に改めた）

資料④：ポートルスのエディンバラ宣教伝道会宛の書簡（1875 年）

ポートルスの手紙は、ポートランドの外国伝道局の紋章です。ポートランドは、ポートランドの外国伝道局の紋章です。

ポートルスの手紙は、ポートランドの外国伝道局の紋章です。

――『宮城学院大百年史』12 頁（のち、現代風表書に改めた）

資料⑤：ポートルスの肖像（1877 年）

ポートルスの肖像は、ポートランドの外国伝道局の紋章です。ポートランドは、ポートランドの外国伝道局の紋章です。

ポートルスの肖像は、ポートランドの外国伝道局の紋章です。

――『宮城学院大百年史』12 頁（のち、現代風表書に改めた）

資料⑥：ポートルスの肖像（1881 年）

ポートルスの肖像は、ポートランドの外国伝道局の紋章です。ポートランドは、ポートランドの外国伝道局の紋章です。

ポートルスの肖像は、ポートランドの外国伝道局の紋章です。

その結果、初回から説明のわかりやすさに対する評価は上々で、また歴史に対する苦手意識が低減したようなコメントも得ることができた。以下にその一部を紹介する。

・講義を受けるにあたって、まず最初に自分で新聞記事を一通り読んでみました。当時について知識があまりない私にとっては、記事の内容を理解することが難しく、記事に書かれた文字をそのままに受け止めることで精いっぱいでした。その後、小羽田先生の講義資料を拝見し、解説と記事を見比べながら改めて読み直してみました。すると、当時の状況を具体的にイメージしながら楽しく読むことができました。（食品栄養学科）

・私は歴史という科目が苦手です。歴史は暗記科目だと思っており、ただ暗記することが不得意であったのですが、歴史を読み解くためには、人々の生きた営みを知ることが必要だとシラバスに記載があり、この講義を受けてみようと思いました。この講義の中で、大学の歴史を知るとともに、歴史という科目に対する意識を変えてみようと思っています。今回の記事を読んで、非常に物の歴史を感じました。学校へ通う手段は鉄道馬車、入学試験は筆で書くなど、今では考えれないことばかりで驚きでした。歴史に対する見方も変わり、また学校の校歌とこのテキストの行重（ママ）に関連があり、そこもまた面白いと感じました。（食品栄養学科）

特に、第 2 回は宮城学院（当時は宮城女学校）創設がテーマであり、押川方義やプールボーらの様々な人物が協力し合うドラマチックな内容を、教科書では 1,000 字程度に要約された内容を 10,000 字以上の資料で解説するという濃密な回は、多くの学生にとって印象深いものであったと手ごたえを感じている。

・今回の教科書 1 ページに、運命的な出会い・愛する人との別れ・奇跡のタイミング…といった熱いドラマがあったなんて、授業の前にサラッと読んだだけではわかるはずがありません。だからこそ、この授業の面白さがよくわかるし、価値を感じます。「宮城学院の歴史」と限定されている学びのようで、東北学院の歴史や開国後の外国人宣教師たちの国内での動き、当時の社会の様子などなど…想像以上に幅広く歴史を学べているのを実感しました。知れば知るほど、深く・広くなっていって歴史にはキリがないなぁ、とも思いました。（教育学科）

・今回の授業内容は濃く、多くの人物が出てきました。女性宣教師プールボーさん、オールトさん、グリングさん、モーアさん夫妻モーア（ママ）ホーイさん、押川方義さんパームさん、吉田さん松平正直さん、宣教師バラさんらが本学、東北学院設立に深く関わったことを知りました。吉田亀太郎さんによって、初めて東北が脚光を浴びることとなったし、バラさんとの出会いで「合衆国改革派」宣教師との意気投合を図ることができ、奇跡的な出会いの積み重ね、つながりがあったということに驚きました。誰かが少しでも欠けていたら、宮城学院設立まで至らなかったのではないかと深く考えさせられました。（音楽科）

その後も順調に遠隔授業を続け、オンデマンド形式だったこともあり、課題提出率（＝出席率）は平均約 97％と高かった。内容的にも、「校舎全焼」や「戦時下」など苦難に

あったときには、コロナ禍にある自身の境遇と重ね合わせるなどして、深く理解しようとする姿勢を伺わせるコメントも多かった。この点においては、災い転じて福となしたと言うことができよう。

当初予定していたOG職員へのインタビューは、すでに8月に入り、遠隔授業にも慣れた頃でもあったため、Zoomを使用したリアルタイム形式で行った。教科書が100周年当時の内容であったため、そこから現在までを埋めるという目的のもと、世代の異なる3人の職員に登壇していただいた。太田富美子さん（1981 ～ 1982年短大教養科在籍、1982年に入職）、桑名佑桂さん（1991 ～ 2001年中高および大学人間文化学科在籍、2005年に入職）、髙橋里穂さん（2012 ～ 2016年大学生活文化デザイン学科在籍、2016年に入職、2021年に退職）である。事前に質問を提出してもらい、教員が司会として3人の職員にインタビューを行うというスタイルで進行したため、学生の発言の機会はほとんどなかったが、それでも貴重な話を聞くことができたという感想を多く得た。

・OG職員さんの質問の回答を聞き、私は学生しか経験した事がないので学校も企業の一つだと改めて実感しました。ベテランの職員さんから聞く学校の話は、昔と今の学校の違いを知る事ができて面白かったです。印象に残っている授業や学校では何をしていたかなど宮城学院の中での思い出がずっと残っているOGさんの話を聞いて授業も友人関係ももっと大切にしていきたいと思いました。（現代ビジネス学科）

・今回OGさんのお話を聞いて、やはり宮城学院は良い所だなと感じました。特に、先生方は学生と真剣に向き合い一つ一つ丁寧に指導してくださる所は今も変わらない良い所だと思いました。また、先生方だけではなく、学生同士の支え合いや自主的に行動することを身につけられたというお話を聞き、宮城学院での学びが働くことにきちんと生かされていることが分かりました。さらに、宮城学院は多くの職員の支援により成り立っていることが分かりました。今回のお話を聞いて、就職活動や仕事を行う際に生かせるよう、今までの学生生活を振り返り、自分の力にできるようアウトプットを頑張りたいと感じました。（心理行動科学科）

この授業の最後には、全体を通しての感想を提出してもらった。紙幅の都合上、すべてを紹介することはできないが、自らが通う学校の歴史を知ることの意義を感じ、今後の学生生活にとってプラスになるという旨のコメントが多かった。

・私はこの授業を選択しましたが、本学は他の大学に比べて比較的新しい校舎であまり歴史ある大学だとは思っていませんでした。また、本学がキリスト教であることもあまり疑問視せずに4年間を過ごしてきました。きっとこの授業を選択しなければ本学は誰が創立したのかも、何があったのかも知らないまま卒業していたと思います。授業を通して、大学の創立者は1人ではなく、たくさんの人の努力によって作り上げられたものだと分かりました。時代背景には医療があまり進んでおらず、家族を病気で亡くしてしまう方が多かったり、戦争を経験したりと様々な困難があったにも関わら

ず、一生懸命に大学を立て直そうとした人たちが関わっている本学に入学できたことを誇りに思います。本学のことを知れば知るほど、学校に行きたくなりました。SNSで大学の友達にこの授業の話をすると、いろんな歴史があったことに驚かれるので楽しくてよく話していました。また、初めての遠隔での授業だったので不安もありましたが、資料の先生の説明の仕方が分かりやすかったのと、時々クスッと笑えるような話し方だったので楽しんで授業を受けられました。（教育学科）

・講義を通して、様々な人の努力や苦労、多くの人達との関わりによって今の宮城学院があるのだということを学ぶことができました。この授業を受けていなかったら、宮城学院の歴史に関してあまり注目することのないまま卒業していたのではないかと考えると、受けて良かったと感じます。宮城学院の歴史を知れたことによって、講義を受ける前よりも、宮城学院のことを好きになりました。毎回の講義録は、教科書のより詳しいエピソードや関連資料があり、さらに深く知ることができて興味深く読ませていただきました。最後のクイズでは、今までの講義の復習も兼ねて、自分はどのぐらい覚えているのか確認することができて、クイズも楽しむことができました。（心理行動科学科）

以上、私自身が直接に学生とやり取りをするなかで得たコメント等を紹介してきたが、最後にFD推進委員会が実施している授業評価アンケートの結果にも触れておきたい。回答者は36名中17名で、回答率は47.2%と高くはないが、結果は以下のとおりである。

番号	設問	科目評定平均値	全体平均評定値	科目評定偏差値
1	この授業の内容を理解できた。	4.35	4.11	55.62
2	考え方、能力、知識、技術が向上した。	4.29	4.12	54.80
3	自ら学ぶ意欲が湧いた。	4.35	3.97	59.54
4	自ら進んで課題を発見し、探究する力が身に付いた。	4.12	3.87	57.13
5	教え方（教授法）はわかりやすかった。	4.65	4.01	61.51
6	授業中で配信された配布物、提示資料などは読みやすかった。	4.47	4.16	56.38
7	この遠隔授業の進め方に満足している。	4.35	3.90	58.59
9	遠隔授業に使用したツールに満足している。	4.41	3.94	60.44
10	この授業は、対面授業を代替できたと思う。	4.24	3.67	61.54

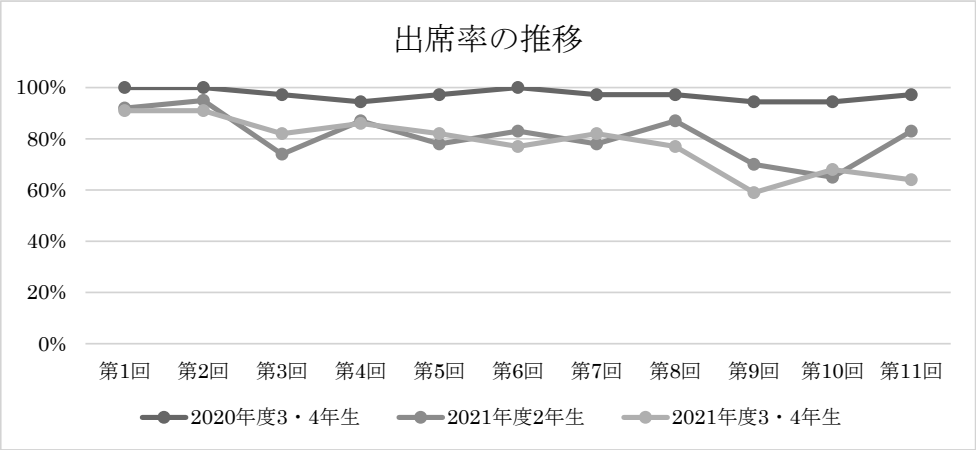
設問8は使用した遠隔ツールに関する設問であるため割愛するが、すべての設問において高い評価を得ていることがわかる。文字を中心とした授業資料は、学生にとって決して苦にならなかったどころか、むしろ良い学びになっていたことが、定量的にも確認できたと言える。

3. 2021 年度の実施内容と成果

この科目は前期科目であるため、2021 年度もまた遠隔での実施となった。前年度に高い評価を得ていたこともあり、実施形態は踏襲し、シラバスおよび講義内容も基本的には変更せず、一部をアップデートするにとどめた。2020 年度と大きく異なる点は、「1.「自校史教育」科目の開設まで」で述べた通り、2 年次対象の新カリキュラム「リベラルアーツ基礎 D（MG 史）」が開講されたことである。即ち、対象学年の異なる 2 つの授業を同一内容で実施した年度である。本節では、前年度との比較とともに、この開講学年による差異についての分析も行っていきたい。

まず、受講生数は、2 年生が 22 名であった。内訳は、現代ビジネス学科 3 名、食品栄養学科 7 名、生活文化デザイン学科 1 名、日本文学科 2 名、英文学科 3 名、心理行動科学科 4 名、音楽科 2 名である。一方、3 年生は 21 名であった。内訳は、現代ビジネス学科 7 名、教育学科 2 名、食品栄養学科 3 名、生活文化デザイン学科 2 名、日本文学科 7 名である。偶然にもほぼ同数だったが、学科構成は大きく異なっている。とはいえ、2020 年度と併せて考えてみても、特に何か傾向がつかめるわけではない。

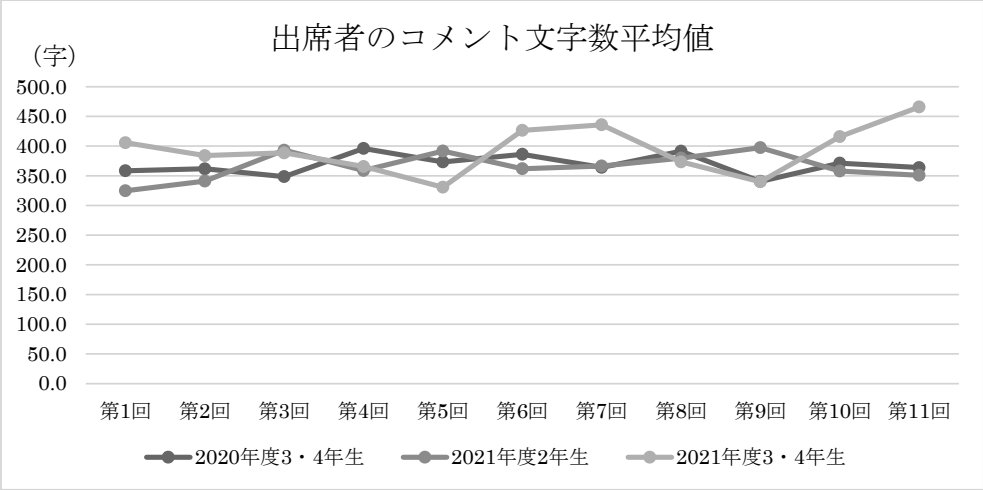
学期全体を通しての課題提出率（＝出席率）は、2020 年度に比して低かった。教科書の解説を行った第 1 回から第 11 回までの平均は、2 年生が 81%、3・4 年生が 78%となっている。以下、その推移を示したグラフを掲載する。



初回の出席率が最も高く、その後少しずつ減少してくること、それが高学年においてより見られることは、おそらく私の授業に限ったことではないが、そのような授業進行度や学年による違いはむしろ誤差の範囲と言えるほどに、2020 年度と 2021 年度の差異は顕著である。もし、この年度による差異も私の授業に限ったことではないのであれば、それは、コロナ禍に対する「慣れ」あるいはコロナ禍の緩和による「行動範囲の拡大」などが要因と考えられる。一方、私の授業に特有の現象であったならば、前年度のマイナーチェンジに過ぎない授業資料が、学生にとって臨場感を欠く（≒手抜き）印象を与えた可能性が考

えられる。これはどのように考えたものだろうか。

前者については、私の授業のみでは検証不可能である。後者については、「出席者のコメントの充実度」から考えてみたい。というのは、毎回課題として提出を求めたコメントについて、こちらから「〇字以上」といった指示はしておらず、であれば、学生の授業に対する印象の深さにある程度比例するのではないかと考えられるからである。そのグラフを以下に示す。



一瞥してわかる通り、ここには出席率ほどの差異は見られないどころか、いずれもおおよそ 350 字強の前後に収まっていると言える。よって、少なくとも課題を提出した学生にとっては、年度（や学年）による興味関心あるいは理解度の差は特になかったのではないだろうか。よって、2020 年度から 2021 年度にかけての出席率の低下は、私個人の要因というよりは外的環境の変化によるものと推測されるが、であれば、ここでこれ以上の考察は控えたい。

なお、この 3 クラスに共通して言えることとして、第 9・10 回の出席率が低かったことが挙げられる。これは「光あおいで」のテーマで言えば「仙台空襲」、「再建」、「文化の殿堂」、「成長」の回であり、私としては終戦から大学創設へと至る「見せ場」とも言える部分だと認識していたのだが、学生の関心はそうではなかったようだ。授業コメントから察するに、第 8 回の戦時下への突入といういわゆる「鬱展開」が苦手な学生もいたようであるし、それと「飽き」の時期とが重なったのかもしれない。今後さらなる工夫が求められる箇所だと認識しておくべきであろう。

本節においても、最後に FD 推進委員会が実施している授業評価アンケートの結果に触れておく。回答者は両クラスとも 6 名しかなく、回答率は 30％にも満たないので、決して質の高いデータとは言えないのだが、結果は以下のとおりである。

番号	設問	科目評定 平均値 2年生	科目評定 平均値 3・4年生
1	この授業を意欲的に受講できた。	4.50	5.00
2	内容を理解できた。	4.17	4.83
3	考え方、能力、知識、技術などが向上した。	4.33	4.83
4	自ら学ぶ意欲が湧いた。	4.00	5.00
5	自ら進んで課題を発見し、探究する力が身についた。	3.83	4.50
6	教え方（教授法）はわかりやすかった。	4.00	4.83
7	配布物、掲示資料などは読みやすかった。	4.17	4.83
8	総合的に判断すると、この授業は良い授業だった。	4.50	5.00
12	遠隔授業に使用したツールに満足している。	4.67	4.33
13	この授業スタイルは、対面授業を代替できていたと思う。	4.33	4.33

2020 年度とは設問も回答率も変わっており、単純に比較することはできないのだが、2021 年度も概ね高い評価を得ることができたと言えよう。とはいえ、興味深い事実が目を引く。同一年度内で回答率もほぼ同じ 2 つクラスについて比較すると、ほぼすべての設問において、3・4 年生の評定が 2 年生のそれを上回ったということである。即ち、出席率も各回のコメント文字数も大きな差はなかったにもかかわらず、授業評価が異なっているのである。もしこれがサンプルの偶然の偏りに起因するものではないのであれば、何を示しているのだろうか。

考えらえるのは、本学に対してすでになじみのある 3・4 年生とそうではない 2 年生との違い、であろう。特に 2 年生は 2020 年度に入学したのであるから、入学当初よりコロナ禍にあり、キャンパスに足を踏み入れたことすらほとんどない学生たちである。彼女らにとって、授業の内容を情報として理解することはできたとしても、これまでの学生生活を振り返って歴史と関連させたり、逆に歴史から自らの将来の展望を見出したりすることは、決して容易ではないと想像されるのである。

このことは、この授業の今後を考えるうえで重要な手掛かりを示しているように思われる。つまり、何年生を対象に開講するべきか、ということである。おそらく、学年が上がれば上がるほど、この授業に対する理解度は深まるはずである。そういう意味では、少なくとも初年次教育に位置づけるのは、私個人としては抵抗がある。授業で語る多くのことが、各自の学生生活と関連させて消化されることなく終わってしまうのは、非常に勿体ないことである。

しかしながら、学年が遅ければ遅いなりに別の問題がある。冒頭に述べたリベラルアーツの趣旨とは別に、本学について知ることがこの授業の目的の 1 つであるならば、やはり

その知識を生かす時間を与える必要があるからである。事実、本講義を終えた時点で、2年生は学生生活の3分の1を終えたあたりなのに対して、3年生は半ばを過ぎ、4年生に至っては残すところあとわずか、という時期に差し掛かっており、受講した学生のなかには「もっと早く知っておきたかった」という声も少なくなく、それが3・4年生に多かったことは想像に難くない。

これらを総合するに、授業内容に対する満足度は3・4年生の方が高くなることが予想されるものの、授業そのものに対する姿勢や理解度は2年生とて劣るものではないため、本学における今後の学生生活への姿勢という、この授業以外にも波及する教育効果を求めるのであれば、新カリキュラムとしての「リベラルアーツ基礎D（MG史）」の開講時期は妥当なものと判断される。

おわりに

以上、本稿では、本学で2020年度より新たに開始した自校史教育について、その理念的位置づけや開設の経緯から説き起こし、授業実践の説明と成果について述べたうえで、そこから得られたいくつかの展望を示した。

2020年度からのコロナ禍における対応は、大学にとっても私自身にとっても小さくない試練であったが、教育本来の目的を見失わずに対応し、学生の反応も見る限り、学生にとって良い学びを提供できたものと自負している。とはいえ、選択科目という性質もあって履修者は決して多いとは言えず、より多くの学生に本学の歴史を知ってもらうためにも、この授業の魅力をさらに高めていかなくてはならない。また、対面授業というスタイルに戻った2022年度以降は、授業資料を作り変えることはもちろん、講義の進め方においても新たな展開が求められている。こうしたコロナ禍明けの実践と成果については、稿を改めて報告したい。

（こはだ せいじ / 宮城学院女子大学一般教育部教授）

三浦綾子の死生観とキリスト教信仰

松本　周

宮城女学校設立から 137 年を数える宮城学院の歴史に数多くの事象が刻まれている。その歴史の一コマとして、宮城学院を訪れたキリスト教作家である三浦綾子を取り上げる。

三浦綾子の宮城学院来訪は 1968 年 10 月 13 日であった。「小説「氷点」の作家三浦綾子女史を大講堂にお迎えして「私を変えた愛」と題する同窓会主催の講演会を開催。女史はキリスト教の厚い信仰に支えられて、常に文学と宗教との接点を追求され、祈りのうちに執筆されるという人柄に、同窓会は深い共感を覚え以前から女史とご交際のあった同窓会顧問の佐藤利吉先生のご尽力によって実現の運びとなった。同窓生のみならず、一般の方々にも解放したので、会場は立錐の余地もないほど盛況であった」[1] と記録されている。

三浦は作品の中で自身のキリスト教信仰を明確に表現しているが、それと共に三浦自身の人生経験に基づく「死と生」というテーマが諸作品を貫いている。本論考では三浦作品に込められた、死生観とキリスト教信仰について考察する。

まず、三浦の生涯を略年譜で確認する。

1922　北海道旭川市生まれ
1939　旭川市立高等女学校卒業、小学校教員になる
1946　軍国主義教育に関わった自責の念から教師退職
　　肺結核発病
1952　キリスト教の洗礼を受ける
1959　三浦光世と結婚
1963　『氷点』発表
1966　『塩狩峠』連載開始
　生涯にわたりさまざまな病気と格闘しながら、死を意識した主題、聖書とキリスト教信仰に関わる作品を多数執筆。
1999　逝去

[1] 宮城学院最近十年小史編集委員会編『宮城学院最近十年小史』昭和 52 年、75 頁。

敗戦と発病における「死」の意識

三浦の生涯の中で、とりわけ 1946 年の教師退職から 1952 年に洗礼を受けてキリスト教に入信するまでの期間に注目したい。そこに本稿の主題である「死生観とキリスト教」が集中的に観察されるからである。なお三浦は自伝小説『道ありき』において「自分の心の歴史」[2] として精神の変遷を記しているので、同書を基に以下を記述する。

三浦は 1946 年に死を意識したことを「敗戦後割腹した軍人たちのように、わたしたち教師も､生徒の前に死んで詫びなければならないのではないだろうか」[3] と記している。これには 1945 年の日本敗戦により、社会の価値観が根底的に転換したことが関係している。戦時中に小学校教師であった三浦はこどもたちへ熱意を込めて教育を施していた。しかし敗戦後には国定教科書に墨を塗ることをこどもたちへ指示することになった。戦時中に「正しい」とされたことが、敗戦後の占領下日本では「正しくない」こととされる。三浦は自分の教えた内容を振り返って「そうした時代の教育は、天皇陛下の国民をつくることにあったわけである。だから、この教育に熱心であるということは、私の人間観が根本から間違っていたということになる」[4] と述べている。三浦自身は正しいことと思い熱心に教育したが、その教育はこどもたちを戦場へ赴かせることに帰着するものでもあった。

敗戦により社会的な価値秩序の転覆に直面した三浦は、小学校教師退職を自らの精神的死につながるものとして受け止めた。さらに同年に三浦は肺結核を発病する。その事態に直面した三浦は「ここで死んだとしても、それほど残念だとは思わなかった。……わたしには、生きる目標というものが見つからなかった……何を目標に生きて良いかわからないのに、生きているということは、ひどく苦痛であった……すべての存在が、否定的に思われてくる。自分の存在すら､肯定できないのだ」[5] と心境を述べている。価値体系の崩壊による社会的死と生きがいであった教師を辞めることによる精神的死、発病による身体的死の予感、三浦はこれらの「死」に取り囲まれていた。しかもそれらの死を跳ね返して、生きる方向へと自らを向かわせる意志を三浦は喪失していた。身体的生命はかろうじて活動しているが、スピリチュアルな側面としてのいのちが失われている、それが 1946 年時点での三浦の生における「死」の体験であった。

前川正との交流と「生きる意味」の発見

「死」に包囲された精神状態から三浦の病気療養生活は始まった。生きる意味を見いだせず、自暴自棄になっていた三浦に対し、幼なじみの前川正が生きることへと三浦に繰り返し語りかけた様子が『道ありき』に描写されている。

2　三浦綾子『道ありき』新潮文庫版、昭和 55 年、5 頁。
3　三浦『道ありき』19 頁。
4　三浦『道ありき』16 頁。
5　三浦『道ありき』29 頁。

「綾ちゃん、いったいあなたは生きていたいのですか、いたくないのですか」彼の声が少しふるえていた。

「そんなこと、どっちだっていいじゃないの」実際の話、わたしにとって、もう生きるということはどうでもよかった。むしろいつ死ぬかが問題であった。小学校の教師をしていた頃の、あの命もいらないような懸命な生き方とは全く違った、「命のいらない」生き方であった。

「どっちだってよくはありません。綾ちゃんおねがいだから、もっとまじめに生きてください」前川正は哀願した。[6]

こうした前川の態度に、三浦は当初反発する。生きがいを喪失し、病の進行のままに「不作為による死」さえ願っていた三浦であった。しかし三浦に生きるよう促し続ける前川は、医学生としての専門知識もふまえて自身が結核により限られた命であることを自覚していた。「彼は自分の命が、あと何年ももたないことを知っていて、その命をわたしに注ごうと思っていたのである」[7]と三浦は述懐している。そしてここに表現される、前川の命を受け渡される三浦の命という思考に、三浦作品における死生観の特徴である「犠牲」理解の萌芽を見いだすことができる。

前川との人格的交流を通して三浦は「生」を充実させていくことになる。「彼の背後にある不思議な光は何だろうと、わたしは思った。それは、あるいはキリスト教ではないかと思いながら、わたしを女としてではなく、人間として、人格として愛してくれたこの人の信じるキリストを、わたしはわたしなりに尋ね求めたいと思った。」[8]それは同時に前川の生き方を基礎づけていたキリスト教信仰への希求と結びついていく。その結果、三浦のキリスト教入信の決意は死生観との強い結びつきをもって表明されるに到る。以下は、キリスト教入信時における三浦の心象風景である。

恐らくこの病院の重症室で、人の死ななかったベッドはひとつもないにちがいない。そしてまた、わたしも今こそ古い自分がここで死ぬのである。

「人もしキリストに在らば新たに造られたる者なり、古きは既に過ぎ去り、見よ新しくなりたり。(コリント後書五章一七節)」

この聖書の言葉のように、古いわたしは死に、そして新しくイエス・キリストに生きる者として生れ変わらなければならないのだ。人の死んだベッドの上こそ、今後の療養生活にふさわしいと、心からわたしは思ったのである。[9]

---

6 三浦『道ありき』78 頁。
7 三浦『道ありき』74 頁。
8 三浦『道ありき』81 頁。
9 三浦『道ありき』217-218 頁。

新しく生きる決心と共に、三浦は洗礼を受け、キリスト教信者となった。かつて自らの人生に精神的・社会的死を宣告し、生きる意味の喪失から希死念慮を抱えていた三浦が、前川および彼のキリスト教信仰と出会うことによって、生きることへと自己を向かわせ、生きる意味を新たに求める人生となった。キリスト教入信がその後の三浦における文学創作の原動力となり、作品に「死と生」が主題的に展開される原点となった。次項では三浦の死生観が「犠牲」認識へと収斂され、作品に表現される形姿を考察していく。

三浦における「犠牲」理解としての死生観

キリスト教入信を大きな契機として、死ではなく生へと人生を方向づけた三浦は、それからほどなくして試練を迎える。「昨年の七月、敬愛する西村先生を失い、それから一年もたたぬうちに、最愛の前川正も天に召された。当時のわたしは、この世よりも、天国の方が慕わしく思われてならなかった。」[10] 三浦をキリスト教入信へと導く役割を果たし、親密な人格関係にあった二人の人物の死を立て続けに経験した際の心境が語られている。此岸よりも彼岸に憬れようとする三浦の願望は、しかし以前のように自らの死を願ったり、生の意味を喪失したりする結果にはならなかった。

三浦は前川の死と自らの人生を次のように関連させる。

> わたしは、三十五歳で死ななければならなかった前川正が、もしこの後も生きていたならば、いったい何をしようと思うであろうか。死んだ彼の分まで、わたしは生き通さなければならないのだと、ともすればくずおれそうな自分の心を鞭打っていた。
>
> （正さんは病気がなおりたかったのだ。わたしはなおらなければならない。あの人は歌を作りたかったのだ。わたしは作らなければならない。あの人は教会に行きたかったのだ。わたしは教会に行かなければならない）
>
> 彼が生きたかったであろうように、わたしは彼の意志を受けついで、生きられるだけ生きようと決意した[11]。

自分を愛してくれる相手の命を受けついで自分が生きる。その事態を相手の側から捉え返せば、自分が生きるために相手が命を差し出している、すなわち「犠牲」という表現になる[12]。そして相手から命を受け取るという意味での三浦の犠牲理解は、イエス・キリストと自己との関係理解へ結びつく。「このわたしの命は、イエス様の命と引替に与えられ

[10] 三浦『道ありき』272 頁。
[11] 三浦『道ありき』280 頁。
[12] その後に三浦と出会い、結婚することになる三浦光世は「神様、私の命を堀田〔三浦の旧姓〕さんに上げてもよろしいですから、どうかなおしてあげてください」（三浦『道ありき』298 頁）と祈ったという。これも三浦の「犠牲」理解に結びつくエピソードである。

たものなのだ。いまやっと、それがわかった。頭ではなく、胸でスカッとわかった。わたしの命が尊いということの、本当の意味がわかった。」[13] イエス・キリストの死から、自己の生へと命を受け取ったという認識が、三浦における犠牲理解の根底に存する。そしてキリスト者がイエスの生き方を反映している存在だと考える故に、三浦はキリスト者であった前川が「その命をわたしに注ごうと思っていた」という仕方で、キリスト者の生を犠牲的生き方として把握するのである。

三浦の理解する「犠牲的生」が作品に現れ出ている諸相を、以下に観察したい。「犠牲」がもっとも主題的に扱われる作品は『塩狩峠』である。三浦自身が明確に「犠牲」というテーマを意識して執筆している。作品の最終部には次のような描写がある。

> 「永野さんが‥‥」「どうしたんだ?!」「犠牲の死です」
>
> 若い青年が叫んだ。そこで吉川は、人々から事件のあらましをきかされた。吉川は呆然とした。線路の上に飛びおりた信夫の姿が鮮やかに目に浮んだ。純白の雪に飛び散った信夫の血を、吉川は見たような気がした。信夫にふさわしい死に方のような気がした。[14]
>
> 「うん、永野はね‥‥永野はね‥‥、ふじ子、永野は自分が汽車の下敷きになって、汽車をとめたんだ。そして乗客全部の命を助けたんだ」[15]

『塩狩峠』主人公であるキリスト者の永野信夫は、自分の身を挺して暴走する客車を止め、乗客の命を助けた。三浦はその行為を作品登場人物の口をして「犠牲」と語らせる。さらに永野のキリスト教信仰と結びつけ「「一粒の麦、地に落ちて死なずば、唯一つにて在らん」その聖書の言葉が、吉川の胸に浮んだ」[16] と作品中に記される。したがって三浦は、キリスト教を信じる人間とは、イエス・キリストが十字架でそうであったように、犠牲的生き方へ極まることを理想と考えていると解される。

三浦の犠牲理解は『塩狩峠』のみならず他の作品にも見いだされる。三浦を世間に広く知らしめた作品である『氷点』では、青函連絡船洞爺丸の台風による沈没事故の場面で、次のような出来事が描かれる。

> 「ドーシマシタ？」宣教師の声は落ちついていた。救命具のひもが切れたと女が泣いた。「ソレハコマリマシタネ。ワタシノヲアゲマス。」「アナタハ、ワタシヨリワカ

[13] 三浦『道ありき』317 頁。
[14] 三浦綾子『塩狩峠』新潮文庫版、昭和 48 年、330-331 頁。
[15] 三浦『塩狩峠』334 頁。
[16] 三浦『塩狩峠』344 頁。なお、ここで引用された聖書箇所はヨハネによる福音書 12 章 24 節である。

イ、ニッポンハワカイヒトガ、ツクリアゲルノデス」[17]

キリスト教宣教師が自分の救命具を見ず知らずの相手の命を助けるために譲り渡し、宣教師の命は失われた。この描写について三浦自身が他の著作で解説的に述べている。「私の小説『氷点』の中にも書いたことだが、昭和二十九年秋、青函連絡船洞爺丸が、台風に襲われて座礁転覆した。……二人の外人宣教師が同乗していたが、救命具を持たぬ若い男女に、自分たちの救命具を与えて死んでいった。……彼らが救命具を与えたのは人に見せるためではない。……誰一人見る者のない中で、彼らは自分の命ともいうべき救命具を、人に与えたのである。誰が見ていなくとも、見ていてくださる神への信頼のもとになし得た行為であると思う。」[18]『塩狩峠』の永井と同じく､『氷点』における宣教師たちも実話に基づいている。彼らの犠牲的行為について三浦は、人から英雄視されるためではなく、ただ「神への信頼」すなわち自らが信ずる神への応答的生き方が犠牲という行為に結実したと理解する。

三浦がキリスト者の犠牲行為について、他者からの評価を得ようとするものではなく、神との関係から生じる自発的行為だとするのは、その動機の信仰的純粋性を強調していると捉えられる。しかしながら現代思想との対論においてまさにこの点が、検討すべき重大な点となる。一度、三浦のテクストから離れる形になるが、現代における「犠牲」批判について概観しておきたい。その批判は三浦の作品における「犠牲」理解に対しても向けられると考えるからである。

「犠牲」をめぐる議論と三浦の思想

キリスト教信仰はその基盤にイエス・キリストの十字架における犠牲という理解を有するがゆえに、三浦以外のキリスト者作家もまた「犠牲」について言及する。以下に、代表的な二人の作品例を取り上げる。

一人は吉田満である。『戦艦大和ノ最期』に次のような記述がある。「今目覚メズシテイツ救ハレルカ　俺タチハソノ先導ニナルノダ　日本ノ新生ニサキガケテ散ル　マサニ本望ヂヤナイカ」[19] 第二次世界大戦での日本の敗戦が濃厚になる中で、戦艦大和が出撃する。死を覚悟する状況下で、自分たちの死に意味があるのかと兵士たちが論争する中で、臼淵大尉が述べたと記される言葉である。日本という国が真に目覚めて新生するための、さきがけとしての犠牲が戦艦大和乗組員の死が持つ意味であると語り、この発言をもって論戦を終止させたと記されている。

もう一人は永井隆である。『長崎の鐘』中での「原子爆弾合同葬弔辞」に、以下のよう

[17] 三浦綾子『氷点　上』角川文庫版、昭和 57 年初版、平成 24 年改版初版、374 頁。
[18] 三浦綾子『新約聖書入門』光文社文庫版、1984 年、57 頁。
[19] 吉田満『戦艦大和ノ最期』講談社文芸文庫版、1994 年、46 頁。

な言がある。「主与え給い、主取り給う。主の御名は賛美せられよかし。浦上が選ばれて燔祭に供えられたることを感謝致します。この貴い犠牲によりて世界に平和が再来し、日本の信仰の自由が許可されたことに感謝致します。」[20] 永井は原子爆弾の長崎投下わけても爆心地が浦上天主堂であったことは、世界平和と日本での信仰の自由実現のための「犠牲」であったと述べている。

こうした犠牲理解を日本社会や国家との関連で強く批判するのが高橋哲哉である。「近代国民国家において国家のために死ぬこと＝殉国が聖なる行為とされ、それを行なう者が聖化・聖別される構造は、キリスト教において神の国のために死ぬこと＝殉教が聖なる行為とされ、それを行なう者が聖化・聖別される構造と完全に重なる」[21] として批判する。キリスト教が内包する犠牲を美化する論理は、近現代において国家のために犠牲を強いる思想を補強するものであるとして、「犠牲」という思想や論理を全面的に否定すべきものと高橋は捉えている。「犠牲」という発想自体を根本的に否定する高橋の論に従えば、三浦が作品の中で繰り返し強調する犠牲理解もまた否定され棄却されるべきものということになる。

犠牲思想について、高橋と異なった見解を提示するのは島薗進である。「死ぬに値する行為はある。愛する他者のため、自らが育てられた共同体のため（たとえば民族や国家）、また「一般的ナ、普遍的ナ、何カ価値トイフヤウナモノ」に連なるならば、一言で言って義にかない意味ある死であるならそれは受け入れられる。」[22] 島薗は、吉田の作品『戦艦大和ノ最期』から引用しつつ、対象が「義にかない意味ある」ものである場合、それは犠牲に値すると論ずる。言い換えれば、倫理的価値が犠牲の有意味性を決するということである。この立論に所在する疑問点は、では犠牲行為に対する倫理的価値判断の主体は誰かということである。ある人や時代状況において「義にかない意味ある」とされた事柄が、別の人物や時代の変化において無価値・非倫理的と判断されることがある。戦時中に教師であった三浦が日本の敗戦で経験したのは、まさしく倫理的価値の転覆状況であった。したがって島薗の論によって、三浦における犠牲理解の当否を判断することはできない。

現代の宗教学や思想史において議論される「犠牲」解釈をめぐって、見解を異にする立場を提示し、どちらの立場からも三浦における犠牲思想を評価することが困難であることを確認した。それをふまえて三浦における「犠牲」理解はどのように意味づけられるであろうか。結論を先取りして述べれば、三浦の犠牲理解は「生」とその意味づけへの強い傾きを有しているところに特徴がある。現代思想において、犠牲思想がときに厳しい批判にさらされるのは、人間の死が「犠牲」によって意味づけられ、さらには美化されることへの否定である。国や理念、宗教思想といった価値への貢献であるという理由で人命喪失が

[20] 永井隆『長崎の鐘』サンパウロ（アルバ文庫版）、1995 年、148 頁。
[21] 高橋哲哉『国家と犠牲』日本放送出版協会、2005 年、192 頁。
[22] 島薗進『日本人の死生観を読む』朝日新聞出版 2012 年、188 頁。

正当化され、またその論理によって人命が軽視され、人権が抑圧されることへの異議申し立てが「犠牲」批判として述べられている。それはいわば犠牲「死」の意味という側面から展開される議論であり、「犠牲」理解に対する厳しい批判はその点から生じる。

他方、三浦が「犠牲」を記すとき、そこには受け取った命の価値を認識していかに生きるかという「生」への強調がある。洞爺丸に乗船していたキリスト教宣教師の犠牲的行為について三浦は、『氷点』において「自分自身の救命具をやった宣教師のことを、啓造はベッドの上でも幾度も思い出したことだった。啓造には決してできないことをやったあの宣教師は生きていてほしかった。あの宣教師の生命を受けついで生きることは、啓造には不可能に思われた。あの宣教師がみつめて生きてきたものと、自分がみつめて生きてきたものとは、全くちがっているにちがいなかった。」[23]「啓造は生きているということが、どんなに厳しい事実であるかを、今度の海難事故で知ったつもりだった。あの痛ましい犠牲の上に生きている事実を生涯忘れずに、本当に真剣に生きようと啓造は旭川に帰ってきたのだった。」[24] 作品中の中心人物である辻口啓造を通して以上のように述懐させている。「犠牲」を受け取った存在として生きるということは、以前と同一線上にある自己の人生が、従前の生き方とは異なるものとなり、自らへ命を差し出した存在の生を重ね合わせることで自己の生が新たな意味づけを持つものとなる。

犠牲に接して人生が新たな意味を持つことにつき三浦は、『塩狩峠』で永野の婚約者である吉川ふじ子に託して「信夫の生きたかったように、信夫の命を受けついで生きる」[25]と表現している。そして『塩狩峠』での吉川ふじ子と永野信夫の間における命を受けつぐ人生とは、『道ありき』に記された「彼が生きたかったであろうように、わたしは彼の意志を受けついで、生きられるだけ生きようと決意した」[26] という三浦自身と前川正との命の関係そのものである。受けついだ命をいかに意味深く生きていくかという生の課題を自らに引き受けることこそ、「犠牲」の命を引き継ぐ人生であると理解されている。三浦の「犠牲」理解は、死の側からではなく、生の側から如何に「犠牲」を受け止めていくかという視点を有している。そのことにこそ、三浦「犠牲」理解の特徴が存するのである。

イエス・キリストの「犠牲」と三浦作品

前項において三浦における「犠牲」理解が、死の意味づけよりむしろ生を意味づけ肯定する特徴を有している事実を確認した。このことは、夫である三浦光世が「綾子の本を読んでくださる方が、絶望から希望へ生きることができ、自殺など思いとどまってくださる

[23] 三浦『氷点　上』380 頁。
[24] 三浦綾子『氷点　下』角川文庫版、昭和 57 年初版、平成 24 年改版初版、6 頁。
[25] 三浦『塩狩峠』342-343 頁。
[26] 三浦『道ありき』280 頁。

なら、なんと幸いなことであろう」[27] と生を肯定し、生きる意味を見いださせる三浦作品の力について語っていることからも理解できる。その三浦にとって、生の意味を根底で与えているのはイエス・キリストの十字架による犠牲であった。先にも引用したが『道ありき』における「わたしの命は、イエス様の命と引替に与えられたものなのだ。……わたしの命が尊いということの、本当の意味がわかった」[28] との記述に、イエス・キリストの犠牲による自らの人生という自己理解が表現されている。それ故に三浦にとって、一度は社会的・精神的死を経験し身体的死を覚悟した後、新しくもうひとたび生きる意味とその人生での使命とは、自分を真に生かしている「犠牲」の出来事に込められたイエス・キリストの愛を伝えることであった。

三浦の執筆した多くの作品も上述の目的を有している。「三浦文学の最大の特徴はキリスト教の伝道を目的としているところにある。綾子にとって「キリスト教の伝道」は、教義を伝えるということよりも、イエス・キリストの十字架に端的に示されている神の愛を伝えることである」[29] と評される。ここで述べられる「イエス・キリストの十字架に端的に示されている神の愛」こそが「犠牲」であり、キリスト教信仰とキリスト者が表現するその姿を、三浦は作品を通して伝えてきた。作品だけでなく講演活動においても三浦の姿勢は同じであった。本稿冒頭で触れた宮城学院における三浦の講演は文書記録によれば、『道ありき』に記された自伝的歩みとほぼ同一内容であったが、最後に「私の一生を闇から光りあるものに変えたのはまことに神の愛である。私は今ここに皆様のために心から神の子イエス・キリストをご紹介申上げる」[30] と講演を結んでいる。有名作家としての自己を宣伝するのではなく、自分の人生を通してイエス・キリストを伝える姿勢はそこにもあらわれている。

本論考では死生観を切り口として、三浦の実存的生と重ね合わせて作品を分析し、死生観の中心にある「犠牲」思想とその特徴を確認してきた。最後に論者の専門であるキリスト教神学の観点から、三浦の「犠牲」理解について残存する問いを提出しておきたい。それはイエス・キリストによる「犠牲」と人間の「犠牲」行為との関係理解である。神学的にはキリストの犠牲は「究極的」であり「終局的」である。すなわちイエス・キリストの十字架が唯一の犠牲であり、人間はそれ以外の犠牲を神から求められないという神学的理解である。それであれば、三浦作品に登場する人間の犠牲的行為とイエス・キリストの「犠牲」とはどのような関係にあるのかという神学的問いが生じてくる。むろん三浦は神学を専門的に学んだ牧師ではなく、上述の問いは直接的に三浦自身の関心ではなかったと考えられる。しかし三浦作品の読者が、作品に登場する人物によってなされる犠牲的行為

[27] 三浦光世『死ぬという大切な仕事』光文社文庫版、2004 年、22 頁
[28] 三浦『道ありき』317 頁。
[29] 竹林一志『三浦綾子文学の本質と諸相』新典社、2022 年、30 頁。
[30] 『宮城学院同窓会会報 11』宮城学院同窓会発行、1969 年、27 頁。

をキリストの犠牲の「模倣」として受け止め、そのような生き方をしなければキリスト者たり得ないと理解されるならば、それはプロテスタント・キリスト教の信仰内容と隔たりのある解釈をもたらすことにもなりかねない。今後の課題として、三浦作品の諸テクストをより詳細に分析しつつ、この点を考究することとしたい。

※本稿の一部は宮城学院キリスト教講座「三浦綾子における死と生」（2023 年 6 月 16 日）での発表内容を基としている。
三浦綾子の宮城学院来訪記録に関しては、宮城学院資料室の佐藤亜紀氏が資料探索くださった。記して感謝を申し上げる。

（まつもと しゅう／宮城学院女子大学一般教育部准教授）

宮城女学校第７回生の夫たち
―顔写真特定と目歯比率―

佐藤 亜紀

はじめに

2022 年 10 月 26 日に宮城学院女子大学附属キリスト教文化研究所主催の公開研究会「悲しみを語り伝えるために―旧約聖書にみる語り部の格闘―」が開催された。講師は青山学院大学教授左近豊（とむ）先生でオンラインで参加した。数日後、資料室に佐々木学院長より電話があった。「左近豊先生の曽祖父左近義弼（よしすけ）氏の妻は宮城女学校を卒業した津田まつだが、本当かどうか調べてほしい」との問い合わせだった。早速調べたところ、1899（明治 32）年宮城女学校第 7 回卒業生の写真と卒業生の名前の一覧があった。そこに併記されている配偶者の名前から津田まつ当人であると確認された[1]。NHK 朝の連続テレビ小説「はね駒（こんま）」のモデルとなった小泉ハルの名前もあった。小泉ハルについては他にも写真があり容易に特定できた。しかし、他の 4 名については資料がなく名前と顔の特定に至らなかった。左近豊先生に卒業写真を送り判定を依頼したところ、晩年の左近夫妻の写真と共に後列右が津田まつと判断される旨ご返事をいただいた[2]。

写真1. 第7回卒業生

小泉ハル（磯村源透氏夫人）
菊地トラ（加藤與五郎氏夫人）
安部ヤス（笹尾粂太郎氏夫人）
津田まつ（左近義弼氏夫人）
森　かの（酒井勝軍氏夫人）

[1] 『校報―私立宮城女学校―』第二号 1918（大正 7）年、34-35 頁。
[2] 佐々木哲夫「巻頭言：資料室の使命」『資料室年報』第 28 号（2023 年）、3-6 頁。

左近先生のご協力により津田まつが特定された。残る3名についても特定のための手掛かりを探し始めた。その作業の過程において彼女たちの夫が実業家・化学者・哲学者など様々な分野で活躍した人物であることがわかった。また卒業生たちの晩年の写真も見つけることができた。

本稿は、第7回卒業生の夫たちの生涯を紹介するとともに、卒業写真の人物特定を試みるものである。

Ⅰ．第7回卒業生の夫たち

第7回生の夫たちは、実業家・化学者・哲学者など様々な分野で活躍した人物であった。各人の夫たちについて以下紹介する。

1. 磯村源透（いそむらげんとう）

小泉ハルの夫である磯村源透についてのまとまった資料を管見につき見つけることができなかった。ハルについての資料は、ドラマ「はね駒」を機に出版された磯村英一『実録はね駒』やハルの信仰に焦点をあてた横山麗子『天まではねろ』がある。その中に源透についての言及がある[3]。ハルの長男磯村英一は著名な社会学者であり、自身の著書『私の昭和史』の中で父親について触れている[4]。これらを参考に磯村源透について紹介する。

生い立ち・結婚

磯村源透は、愛知県名古屋市の寺の息子として生まれ、1925（大正14）年に56歳で亡くなっている[5]。逆算すると、源透は1869（明治2）年の生まれになる。ハルは1877（明治10）年生まれであるから源透は8歳上になる。

ハルは、福島県相馬市出身で父伊助、母カツの長女として生まれた。家は、屋号を出羽屋と称する広幅生地を扱う生地屋を営んでいた。家のすぐ近くに教会がありハルは幼いころから教会（現日本基督教団中村教会）に通っていた。牧師の吉田亀太郎から宮城女学校を紹介され入学した。卒業後、母校の教師を2年半ほど務め、その後、上京し1903（明治36）年に源透と結婚する。ハル26歳の時だった。信仰も出身も違う二人がな

写真2. 磯村源透（右側）
（『天まではねろ』67頁）

[3] 磯村英一『実録 はね駒』開隆堂、1986年、48-49頁。横山麗子『天まではねろ』いのちのことば社、1988年、64-68頁。
[4] 『私の昭和史』中央法規出版、昭和60年、37-38頁、245頁。磯村英一は、社会学者で都立大学教授、東洋大学学長を務めた。
[5] 『私の昭和史』245頁。

ぜ結婚に至ったかは、その子供たちにも不明である[6]。当時の源透は、泥炭の販売や乾電池製造の事業に携わっていた。ハルは英語の専門書の翻訳を手伝う中で、さらに語学にみがきをかけようと創立されたばかりの日本女子大学校に入学する。在学中に身籠るがそのまま通学し、津田塾大学の前身の女子英語塾にも籍を置く。ハルの旺盛な知識欲と行動力が目立つ。女が学問をすれば生意気になる、妻を働かせるのは甲斐性なしと言われた時代のことであり、忘れてはならないのは源透の理解と寛容さである[7]。

その後

源透の仕事（この頃は貿易業）も順調に伸び、磯村家は経済的にかなり恵まれたので東京品川の御殿山に居を移す。ハル自身にも大きな転機が訪れる。1905（明治 38）年、報知新聞の婦人記者第 1 号として採用されたのだ。ハルの入社より 8 年前に羽仁もと子が報知新聞社に入社している[8]。羽仁は校正係として採用されており、婦人記者として採用されたのはハルが第 1 号である[9]。婦人記者としてのハルの活躍は、後の米国大統領となるタフトとの単独会見や女性日本初飛行船乗船などまさにドラマの如く「はね駒」であった。

写真3. 職場に子供を連れて働いていたので「ルビつき記者」と呼ばれた（『実録はね駒』178頁）

写真4. 後の米国大統領タフト氏と共に映るハル（左から2番目）（『天まではねろ』110頁）

[6] 『天まではねろ』65 頁。
[7] 『実録はね駒』48-49 頁。
[8] 羽仁もと子（旧姓:松岡）1873（明治 6）年青森県八戸に生まれる。明治女学校卒業後、1897（明治 30）年報知新聞社に校正係として入社し、後に取材記者として活躍する。その後、同職場の記者 羽仁吉一と結婚し、夫婦そろって退社し、女性雑誌「家庭之友」（「婦人之友」の前身）を創刊する。
[9] 『天まではねろ』92 頁。

やがてその暮らしにも影が差す。源透が借金の連帯保証人になったことから工場を手放し会社が倒産したのである。御殿山の大きな家から小さな借家に引っ越さねばならなくなった。ハルの働きが一家を支えることになる。ハルは、10年勤務した報知新聞社を退職しフリーランスとなり精力的に仕事をしたが、夫の会社の倒産や仕事の過労、十一年間に八回のお産などの無理がたたり1918（大正7）年、41歳の若さで亡くなる。死因は心臓病だった。

病気がちだった源透は、関東大震災で頭を打ち2年ほど患い、1925（大正14）年56歳で亡くなっている。短い生涯において天まではねるほどの活躍をしたハルだった。そこに、妻を支え続けた夫源透の存在があったことは言うまでもない。

写真5. ハル最後の写真
（『実録はね駒』230頁）

2. 加藤與五郎（かとうよごろう）

菊地トラの夫である加藤與五郎は化学者・工学者だった。その分野の功績から「フェライト（亜鉄酸塩）の父」「日本のエジソン」と呼ばれ世界の工業界に大きく貢献した[10]。東京工業大学名誉教授、文化功労者でもあり晩年には私財を投じて財団法人加藤科学振興会を開設し後進の指導に当たった。與五郎については『加藤与五郎 人とその生涯』を参考にする[11]。

生い立ち

與五郎は、1872（明治5）年、愛知県刈谷市に農家の長男として生まれた。8歳のとき、母を失い、幼い妹の面倒をみながら暇さえあれば勉強をする子供だった。成績優秀な與五郎は、叔父から尋常高等小学校卒業後に小学校の授業生心得（教師）の検定試験を受けることを勧められる。合格した與五郎は、働きながら独学で英語や数学を習得し、その後、同志社ハリス理化学校（同志社大学工学部の前身）に入学し優秀な成績で卒業する。

結婚

24歳になった與五郎は、東北学院の教師となり数学・物理・科学を担当する（1896年-1899年）。與五郎にとって、仙台の静かな環境と東北地方の素朴な人情は親しみを与

[10] 刈谷市ホームページ　歴史・文化サイト https://www.city.kariya.lg.jp/kankobunka/rekishibunka/jinbutsu/1006401.html
[11] 安達竜作『加藤与五郎　人とその生涯』財団法人加藤科学振興会、昭和49年。

えてくれた。その間、宮城女学校で週に 1 回科学の授業を受け持つ[12]。

本人がなかなかの秀才なのだからお嫁さんも頭の良い人が良いだろうと、東北学院の同僚が與五郎の「お嫁さん探し」の世話をしてくれた。同僚の教え子に宮城女学校生の菊地トラがいた。トラは、1878（明治 11）年、福島県相馬市に生まれ、生家は相馬藩の御用商人で、苗字帯刀を許された豪家であった。トラは突然の結婚話に戸惑い、どんな些細なことでも話し合えた同期生で親友の安部ヤス（結婚後笹尾）に打ち明け相談している[13]。ヤスは、「菊地さん、あなたにわからないことをわたくしがどうして決められますか…」と、二人は床の中で寝もやらず額を寄せて考えたが、どうにも思案が湧かなかった。トラは、周りからの推薦もあり、卒業後母校で 1 年間教師として働いたのち、1900（明治 33）年に與五郎と結婚する。22 歳だった。

その後

與五郎は、渡米しマサチューセッツ工科大学で研究に励み、帰国後は東京高等工業学校・東京工業大学電気化学科教授として定年まで務めた。晩年に、財団法人加藤科学振興会を創設し、科学に関する学術研究の奨励と科学教育の振興を図った。與五郎は生涯で 300 余りの研究を成し遂げ、フェライト磁石（酸化金属磁石）、フェライト製コア（酸化金属磁心）、アルミナ（酸化アルミニュウム）の世界的三大発明をなした。これらはテレビ・ラジオ・電話などの現代のエレクトロニクス製品に不可欠な材料となっている[14]。與五郎は、1967（昭和 42）年 95 歳で亡くなり、トラは 1978（昭和 53）年 100 歳の天寿を全した。長きに渡り與五郎を支え続けたトラの人柄は穏やかで愛情深く、與五郎の多くの子弟から慈母のように慕われた[15]。

写真6. トラ夫人と加藤與五郎氏
（提供：公益財団法人加藤科学振興会）

[12] 『天にみ栄え 宮城学院の百年』学校法人宮城学院、1987 年、824 頁。宮城女学校在職年：與五郎 1898 年 -1899 年、トラ 1899-1900 年。
[13] 『加藤与五郎　人とその生涯』44 頁。
[14] 刈谷市ホームページ　歴史・文化サイト https://www.city.kariya.lg.jp/kankobunka/rekishibunka/jinbutsu/1006401.html
[15] 『加藤与五郎　人とその生涯』8 頁。

3. 笹尾粂太郎（ささおくめたろう）

安部ヤスの夫である笹尾粂太郎はカントの哲学者で、彼の博士論文『カントの神概念』（1900 年）は、カント研究史に残る重要文献の一つとされている[16]。また、東北学院、明治学院、横浜共立学園に於いて教育の普及・学園の発展に尽力した。粂太郎とヤスついては、次男洋二郎の妻菊枝が纏めた『笹尾洋二郎追悼文集 おもいで』、また勤務校で刊行された年史や紀要等にその生涯が記されている[17]。

生い立ち

粂太郎は、1871（明治 4）年、山口県下関市の大きな酢屋に生まれた。3 歳のとき、母を失い、祖父母も相次いで死去したため番頭に育てられた。父親は事業の失敗により全財産を失い、失意の中キリスト教に出会い福岡の柳川教会牧師となる。その父から、粂太郎は洗礼を受ける。高等学校入学後、経済的事情から授業料免除制度のある明治学院神学部へ転校し、働きながら勉学に励み、卒業時には学校より栄誉賞が授与されている。その奨学金で渡米し、オーボルン神学校で学ぶ。その後ドイツに渡り、ベルリン、ハレ、ボンの各大学でキリスト教とカント哲学を研究した。ドイツ留学中親交を深めたシュネーダーの招聘に応じて東北学院神学部教授となる[18]。1902（明治 35）年、粂太郎 29 歳の時であった。

結婚

東北学院で働き始めた粂太郎は、その年安部ヤスと結婚した。ヤスは 1878（明治 11）年、父安部良三清柔（きよあき）、母きぬの長女として宮城県仙台市同心町に生まれた。祖父は漢学者と知られ、父は県内の小学校の校長を務め、同心町の家は 300 年ほどの歴史がある由緒ある家柄に育った。宮城女学校卒業後は、シュネーダー夫人のもとで Helper として働いた[19]。ヤス本人の回想記録を以下に引用する。

> 定めの課程を終え、〔宮城女学校〕卒業。友達もそれぞれ仕事に携わる事になった。私は学院長シュネーダー夫人の許に働く事になり、夫人の仕事の手伝いをした。伝導（原文ママ）の目的にて婦人会の指導に当たり、又は婦人方に英会話を教えたり、店員たちに夜学英会話を教えるなど、その他諸所方々の訪問等にて、なかなか多忙に働

---

16 石川文康「笹尾粂太郎のカント理解―書かれた『序論』と生きられた『本論』」、『東北学院百年史 各論篇』学校法人東北学院、1991 年、241-267 頁。

17 笹尾菊枝『笹尾洋二郎追悼文集 おもいで』祥文社、2002 年。以下『おもいで』と略記。荒井多賀子「共立女学校第五代日本人初代校長 笹尾粂太郎―人・信仰・思想―」横浜共立学園「紀要」第 12 号抜刷、2002 年。

18 D. B. シュネーダー：1887 年来日、1901 年押川方義の後を継ぎ、第 2 代東北学院院長に就任し、1936 年までの 35 年間院長を務め東北学院の発展に尽力する。『東北学院の歴史』学校法人東北学院、2017 年、46 頁。

19 『おもいで』16 頁。

いた。それで少しは社会の片端を覗き見る事が出来た。嫁入りの話などもぼつぼつ持ち上がってきた。その頃、東北学院教授として来仙された笹尾条太郎氏との話が起こり、両家両親達の賛成、友人たちの勧めもあって婚約する事になった。シュネーダー院長宅に於いて、親しき人々の祝福を受け結婚式を挙げ、後米沢高湯温泉に旅行に出掛けた[20]。

その後、条太郎とヤスは四男二女の子供に恵まれ、柳川の父の死後は、義母とその異母兄弟 8 人を引き取り仙台で暮らした。加えて、ヤスの弟 2 人や苦学生も一緒に面倒をみたので笹尾家は常に 16 ～ 17 人の大家族だった。経済的にも困難を極めたが、夫婦共々よく協力し子供と弟妹を育て上げ、医師、大学教授、音楽家等としてそれぞれを独立させた[21]。

写真7. 笹尾条太郎氏とヤス夫人(『おもいで』35頁)

その後

30 年近くつとめた東北学院（1902 年 -1927 年）を去り、母校明治学院（1927 年 -1936 年）に迎えられる。その後、横浜共立女学校（1936 年 -1941 年）の要請により日本人初代校長に就任した。条太郎 65 歳の時であった。1941（昭和 16）年、条太郎は 70 歳の生涯を終えた。ヤスは、そこから 20 年後の 1961（昭和 36）年、「私は幸福だった」との言葉を最後に 83 歳で旅立った。

4. 左近義弼（さこんよしすけ）

津田まつの夫である左近義弼は、聖書を原典から翻訳し出版した最初の日本人であり、また青山学院大学の教授として聖書語学や旧約聖書学を講じた研究者である[22]。息子の義慈（よししげ）と孫の淑（きよし）は共に東京神学大学の教授である。2022 年 10 月に開催された宮城学院女子大学附属キリスト教文化研究所主催の公開研究会で講演された青山学院大学教授の左近豊（とむ）先生は、淑氏のご令息である。左近家は日本における旧約

[20] 『おもいで』16-17 頁。
[21] 『おもいで』18 頁。笹尾とヤスの子供達のうち、長女あや子の夫である高橋正雄は東北学院大学名誉教授、長男東太郎は医師、次男洋二郎は明治学院大学名誉教授であった。また、ヤスの弟である安部正義は、東北学院卒業後、ボストン音楽院に留学。後に東北学院、明治学院に勤め教会音楽の向上、讃美歌 121 番「まぶねの中に」を作曲する。
[22] 左近義慈「左近義弼とその時代」『神学』27 号、東京神学大学神学会、1965 年、84 頁。

学研究の一系譜である[23]。義弼については、義慈の論文「左近義弼とその時代－日本の旧約学の歴史の一断面－」を参考に紹介する[24]。

生い立ち・結婚

義弼は、1865（慶応元）年、福井県杉津の農家の三男として生まれた。1882（明治15）年、福沢諭吉の門下として慶應義塾で学び、その後、時事新報で働く。1887（明治20）年に渡米、90年にニューヨークで英訳聖書を初めて読み、キリスト教に入信する。原語から聖書を和訳することを志し、ギリシャ語やヘブル語などの聖書語学をドルー神学校とユニオン神学校で学んだ。1896（明治29）年、渡米した本多庸一から日本のキリスト教会の教勢を聞き、和訳聖書を手渡されその改訳の必要性を痛感する[25]。

まつは、1878（明治11）年、山形県山形市に生まれ、1899（明治32）年に宮城女学校を卒業する。卒業後は、Helperとして婦人宣教師の下で働きながら、翌1900年に設置された宮城女学校一年制聖書専攻科（特別聖書科）で学ぶ[26]。1901（明治34）年2月2日、福島伊達教会婦人会に通訳婦人・婦人伝道者として出席している。ちなみにこの婦人会には、同期生安部ヤスの夫となる笹尾粂太郎も出席していた。まつは、同日付で飯坂教会に婦人伝道者として赴任した。無償にて派遣されている件につき飯坂教会より宮城女学校ワイドナー宛感謝状が贈呈されている[27]。

1903（明治36）年8月、義弼38歳、まつ25歳のときに結婚し、10月に夫婦でアメリカに帰化した。

その後

1906（明治39）年に帰国し、義弼はその翌1907年から青山学院神学部教授となり聖書語学と旧約学を担当し、1937（昭和12）年まで30年間勤めた。また聖書の改訳にも精力的に取り組み、改訳に関して出版（雑誌掲載含む）されたものは、旧約聖書の19%、新約聖書の73%におよんだ[28]。義弼の改訳の方針が述べられている[29]。

> 改訳の主意は原文の意義を明かにし、その語勢を弱めざると共に亦日本文としてもスラスラと読み通される様にしたいことである。

23　佐々木哲夫「資料室の使命」『宮城学院資料室年報』第28号、2023年、3頁。
24　左近義慈「左近義弼とその時代」『神学』27号、東京神学大学神学会、1965年、74-89頁。
25　『日本キリスト教歴史大事典』教文館、1988年、570頁。
26　津田まつの生年月日、および生地については「仙台日本基督教会　会員名簿　第一号」（日本基督教団仙台東一番丁教会所蔵）を参照。卒業後簿の進路については、「Catalogue Miyagi Girls' School Sendai Japan 1916-1917」（宮城学院資料室所蔵）、90頁を参考とした。
27　『日本基督教団福島伊達教会百年史年表』福島伊達教会百年史編集委員会、1991年、26-27頁。
28　「左近義弼とその時代」87頁。
29　同86頁。

旧約学というものがまだ確立していなかった時代、着々と地味に聖書の翻訳に努力していたのが左近義弼だったと、息子義慈は父の偉業を顧みている。義弼は、1944（昭和 19）年 79 歳で亡くなり、その 6 年前の 1938（昭和 13）年にまつは 60 歳で亡くなっている [30]。

写真8. 左近義弼とまつ(写真提供:左近豊氏)

5. 酒井勝軍（さかいかつとき）

森かのの夫である酒井勝軍は独立のキリスト教伝道者で、東京唱歌学校を設立し讃美歌の指導・普及に従事した。また、日本のピラミッドの発見者や日ユ同祖論者としても知られている [31]。勝軍については、彼の思想や生涯をまとめた久米晶文氏の著書『「異端」の伝道者 酒井勝軍』を参考として紹介する [32]。

生い立ち

勝軍は、1874（明治 7）年、山形県上山市で生まれた。生家は資産家であった。父の山下吉重は上山藩士族（藤井松平家）で、御用人馬廻役を務めていた。次男の勝軍は、幼少期に旧藩主の命により親戚関係にあった酒井姓を継ぐ。小学校を卒業後、1887（明治 20）年、山形英学校に入学し、宣教師 J. P. モールより洗礼を受ける [33]。しかし、家庭の事情（破産）により一年半で退学する。その後、東北学院に入学し、苦学して 1894（明治 27）年に卒業する。在学中、勝軍を惹きつけたのは音楽だった。卒業後、家族のために就職するが、勝軍の胸中には音楽研究のために渡米したいとの思いがあった。1898（明治 31）年、念願かなって渡米し、シカゴ音楽大学やムーディ聖書学院で学んでいる。

---

30 『橄欖』第 20 号、宮城女学校、1938 年、71 頁。その年の永眠者欄に「第七回左近まつ」と掲載があった。

31 久米晶文『「異端」の伝道者 酒井勝軍』学研パブリッシング、2012 年、10 頁・145 頁。

32 久米晶文『「異端」の伝道者 酒井勝軍』学研パブリッシング、2012 年。

33 山形英学校は、校主（県知事）を始め学校経営の理事者には県の有力者がなり、教師陣には校長の押川方義をはじめキリスト者とで 1887 年に開校された。しかし経営難から 4 年で廃校となった。J. P. モールは、合衆国改革派教会の日本派遣第 2 番目の宣教師。山形英学校、東北学院でも教え、宮城女学校では第 2 代校長（1893 年 9 月 -1894 年 8 月）を務める。

結婚

1902（明治 35）年に帰国し、勝軍は東京唱歌学校を設立し、讃美歌の指導・普及に従事した。『うれしき鐘歌』(03)、『賛美論』(06)、『教育と音楽』(06）などの著書を刊行した[34]。

かのは、1878（明治 11）年、福島県北会津郡川南村に生まれ、1899（明治 32）年に宮城女学校を卒業する。卒業後 2 年間は、Helper として婦人教師の下で働き、その後、1901 年から 1903 年まで幼稚園の保母をしている[35]。1903（明治 36）年、勝軍 29 歳、かの 25 歳のとき結婚した。かのは病弱で入退院を繰り返し、「ちゑ子（長女）が 17 歳になるまで生きて居てくれ…」と勝軍を嘆息させたという[36]。

その後

勝軍が亡くなった後に発行された『神秘之日本・終結号』の中で、先に紹介した左近義弼は「酒井君を懐ふ」との題で思い出を語っている。互いの妻が宮城女学校の同期生という縁で、まつ（左近夫人）に連れられ、左近は勝軍の讃美歌運動に顔を出したこともあったが、「陸軍の走狗と成り果てたる背教の異端者と好（よしみ）を通じようと思はず、三十年近くも疎み過ごして居ました」が、昭和十年代に入り、たまたま勝軍の神代文化の講演会を聴く機会があり、共感共鳴し「仙境に遊ぶが如き心地」を味わったと記されている[37]。

写真9. ちゑ子、勝軍、かの。
大正4年頃の撮影
(『「異端」の伝道者 酒井勝軍』237頁)

1905（明治 38）年、勝軍は語学が堪能であったことから、観戦外国武官接待係として日露戦争に従事する。この体験により勝軍は、これまでの反戦平和主義から真逆の思想へと価値観を一変させた。このことが、左近の「陸軍の走狗と成り果てたる背教の異端者」との言葉に代表されているのだろう[38]。勝軍のその後の思想･主義に関しては、『「異端」の伝道者 酒井勝軍』を参照されたい。

---

34 『日本キリスト教歴史大事典』教文館、1988 年、561 頁。

35 森かのの生年月日、および生地については「仙台日本基督教会　会員名簿　第一号」（日本基督教団仙台東一番丁教会所蔵）を参照。卒業後簿の進路については、「Catalogue Miyagi Girls' School Sendai Japan 1916-1917」（宮城学院資料室所蔵）、90 頁を参考とした。

36 『「異端」の伝道者 酒井勝軍』201-202 頁。

37 『神秘之日本 第四十五號　酒井勝軍先生終結號』神秘之日本社、昭和 15 年、62 頁。左近義弼「酒井君を懐ふ」

38 『「異端」の伝道者 酒井勝軍』204-220 頁。

勝軍は、1940（昭和 15）年、66 歳で亡くなった。『神秘之日本・終結号』最終頁にかのと長女ちゑ子の連名による文章「御挨拶」がある。当時、かのは 62 歳である。それ以後のかのの足跡については明らかにできなかった。

Ⅱ．顔写真の人物特定

第 7 回卒業生写真の人物特定を試みる。写真 10 に示すとおり、写真後方左から順に A～E とする。小泉ハルは宮城女学校教員時代の写真があり、写真前列中央 D の人物であると既に判明している。また、津田まつに関しても、ご子孫の左近豊先生に写真の判定を昨年度依頼し、晩年の左近義弼夫妻の写真を送っていただき、写真後列右 B の人物であることが特定されている。課題は残る 3 名（A・C・E）の人物特定である。

写真10. 第7回卒業生

小泉ハル（磯村源透氏夫人）　D
菊地トラ（加藤與五郎氏夫人）
安部ヤス（笹尾条太郎氏夫人）
津田まつ（左近義弼氏夫人）　B
森　かの（酒井勝軍氏夫人）
（卒業生と夫たち）

近年のバイオエンジニヤリング分野における生体認証やコンピューター復顔法にみられるように顔認証の技術進歩は著しい[39]。顔認証においては、複数の顔特徴点を抽出し、そ

[39] 今岡仁『顔認証の教科書』プレジデント社、2021 年、17-22 頁。日本自動認証システム協会『よくわかる生体認証』オーム社、2019 年、31-39 頁。科学警察研究所宮坂祥夫、吉野峰生、瀬田季茂「バイオエンジニヤリングの歴史―復顔法の現状と今後の展望」松崎雄嗣『バイオエンジニヤリング部門報 BIOENGINEERING NEWS』no, 20 Summer (1995. 7)〔https://www.jsme.or.jp/bio-files/news/20/20-3.html〕。

の顔特徴量の解析によって表情や個体の識別をコンピュータ AI 機能が出力する[40]。顔認証のように多数の被験者から迅速かつ正確に本人認証を行う場合と異なり、本稿での対象者は 3 名であり、名前の特定された晩年の顔写真も存在する。それゆえ、卒業時と晩年の顔写真において経年変化の少ない顔特徴点を抽出し、その顔特徴量の照合によって本人の特定が可能であると考えた。

本稿では、顔特徴点として、瞳孔間距離を 1 とした場合、瞳孔間を結ぶ直線と上顎の歯列の下端線との距離の比率、いわゆる、目歯比率を顔特徴量とする。顔面頭蓋は脳頭蓋に比して成長発育が早く 10 歳で 96 パーセントが完成する。また顔の高さや幅も 10 歳までに 90 パーセント完成するという[41]。すなわち 10 歳以降の頭蓋であるならば頭蓋骨の経年変化はほとんどないと考えられる。頭蓋骨と当該者と思われる人物の顔写真を重ね合わせて復顔するスーパーインポーズ法においても、左右の眼窩下縁と下顎骨正中位最後点などの顔特徴点を撮影焦点の箇所に選んでいる。他方、頭蓋骨を直接計測することのできない卒業時と晩年の顔写真による識別においては、頭蓋骨ではなく顔を外から特定できる顔特徴点を選ばなくてはならない。そのような観点から考えるならば、目頭と目尻を結んだ眼瞼裂の位置が通常眼窩の高さの下 3/10 とされているように頭蓋骨と密接に関連している瞳孔間距離と上顎の歯列の下端を顔特徴点とする目歯比率は目視で計測できる顔特徴量であり、顔写真による人物識別の有効な顔特徴量になり得る。そこで以下のような手順で目歯比率を計測し人物の比較をすることとした[42]。

1）卒業写真によって各人の目歯比率を計測する
2）晩年の顔写真によって各人の目歯比率を計測する
3）目歯比率の値によって卒業写真の人物を特定する

なお、検証のため既知の 2 名を含む卒業写真 5 名全員の計測を行った。最初に既知 2 名の卒業時と晩年の写真の目歯比率を表 1 に示す。

40　今岡仁『顔認証』102-4 頁。野宮浩揮、宝珍輝和尚「顔特徴点を用いた特徴選択と特徴抽出による表情認識に基づく映像中の表情表出シーン検出」『京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究 DEIM Forum 2011 c1-5』〔https://db-event.jpn.org/deim2011/proceedings/pdf/c1-5.pdf〕。

41　〔https://blog.goo.ne.jp/zaurus13/e/9cdfe89e04272641394208d6948ce9a8〕「目歯比率に根拠はあるのか？成長による変化は？」。橋本正次「確実な個人識別手段としてのスーパーインポーズ法に関する研究」『歯科学報』92(3), (1992) 2, 429。

42　〔https://www.jstage.jst.go.jp/article/biomechanisms/12/0/12_KJ00004275292/_pdf/-char/ja〕　科学警察研究所宮坂祥夫、吉野峰生、瀬田季茂「骨から顔貌を復元する」『バイオメカニズム』2 (1974), 4。

表1. 既知2名の目歯比率

人物	卒業写真	晩年写真
D.　小泉ハル	1.196	1.183
B.　津田まつ	1.058	1.054

小泉ハルと津田まつの卒業写真と晩年写真の目歯比率を比較すると、2 名とも年齢を重ねても測定値はほぼ変わらないことがわかる。この結果から、目歯比率が有効な識別方法になると判断される。残る 3 名についても同様に目歯比率を測定し、名前の特定を試みる。

表2. 卒業写真3名の目歯比率

A	1.217
C	1.000
E	1.181

表3. 晩年写真3名の目歯比率

菊地トラ	1.250
森かの	1.018
安部ヤス	1.125

卒業写真 A の目歯比率は 1.217 である。他方、晩年写真の目歯比率が 1.2 以上は菊地トラ〔1.250〕だけである。卒業写真 C の目歯比率は 1.000 である。測定値に最も近いのは、晩年写真の目歯比率が 1.018 の森かのである。さらに E の人物の目歯比率は 1.181 である。安部ヤスの晩年時の目歯比率は 1.125 であり、他の 2 人と有意差があり安部ヤスと判断される。よって卒業写真 A の人物は菊地トラ、C の人物は森かの、E の人物は安部ヤスと判断される。判定結果を卒業写真に記入したのが下の写真 11 である。

写真11. 卒業生の名前

A：菊地トラ（加藤與五郎氏夫人）
B：津田まつ（左近義弼氏夫人）
C：森　かの（酒井勝軍氏夫人）
D：小泉ハル（磯村源透氏夫人）
E：安部ヤス（笹尾粂太郎氏夫人）

Ⅲ．さらなる検証

卒業写真（A・C・E）と（トラ・かの・ヤス）の晩年の写真だけを検証者 30 人に提示し、目視での識別を行ってもらった。結果は下記表 4 のとおりである。

表4.　目視による人物特定

		晩年写真					
		菊地トラ		森かの		安部ヤス	
卒業写真	A	25 名	83%	3 名	10%	2 名	7%
	C	3 名	10%	26 名	87%	1 名	3%
	E	2 名	7%	1 名	3%	27 名	90%

目視による識別結果は、卒業写真 A は菊地トラ、卒業写真 C は森かの、卒業写真 E は安部ヤスだった。この結果は、目歯比率の結果と同じである。検証者に顔のどの部位を基準として選んだかを質問してみると、目や口元と答える人が多かった。中には、目と口元までのバランスと話す人もいた。人の顔を特定するとき私たちは無意識のうちに目歯比率を実践していると思われる。

おわりに

今回の調査により、宮城女学校第 7 回生卒業写真 5 名ひとりひとりの人生を知ることができた。朝ドラヒロインのモデルになった小泉ハル以外の 4 名の生涯は、それほど光があたることはなかったかもしれない。しかし、自分の信じた道をひたすらに突き進む夫と共に歩んだドラマが存在していた。宮城女学校で学び、婦人宣教師との人格的な交わりを通して涵養されたキリスト教の精神が彼女たちの人生の糧となり支えになったと思わされた。

本稿を書くにあたり、公益財団法人加藤科学振興会 常務理事・事務局長岡本明氏より加藤与五郎・トラ夫妻の写真をご提供いただいた。また、5 名の受洗記録について東一番丁教会瀬谷寛牧師より掲載のご許可をいただいた。加藤与五郎、笹尾粂太郎、酒井勝軍の資料を東北学院史資料センターの方々よりご教示・ご提供いただいた。また、本稿Ⅱ．顔写真の人物特定の目歯比率については、本学理事長・学院長の佐々木哲夫先生にご指導・ご教示をいただいた。末筆ながら、ご協力くださった皆様にこの場を借りて御礼申し上げる。

（さとう あき / 宮城学院資料室職員）

付属資料

Ⅰ．卒業写真・晩年写真の目歯比率

名前	卒業写真	晩年写真
A. 菊地トラ		
（目歯比率）	1.217	1.250
B. 津田まつ		
（目歯比率）	1.058	1.054
C. 森　かの		
（目歯比率）	1.000	1.018
D. 小泉ハル		
（目歯比率）	1.196	1.183
E. 安部ヤス		
（目歯比率）	1.181	1.125

Ⅱ．第７回卒業生の一覧表

	小泉ハル	菊地トラ	安部ヤス	津田まつ	森かの
生年月日	1877（M10）年3月16日	1878（M11）年3月5日	1878（M11）年2月25日	1878（M11）年1月16日	1878（M11）年12月8日
逝去年月	1918（T7）年1月	1978（S53）年3月2日	1961（S36）年10月29日	1938（S13）年	不明
逝去時年齢	41歳	100歳	83歳	60歳	不明
出身地	福島県相馬	福島県相馬	宮城県仙台	山形県山形市	福島県北会津郡
受洗年	1893（M26）年	1893（M26）年	1890（M23）年	1889（M22）年	1894（M27）年
洗礼教会・牧師	相馬中村教会／吉田亀太郎	相馬中村教会の可能性高い/吉田亀太郎	不明/ジョンス	山形美以教会の可能性が高い/木村七十郎	仙台日本基督教会/三浦宗三郎
仙台日本基督教会転入日	1894（M27）年11月11日	1894（M27）年11月11日	1894（M27）年1月24日	1893（M26）年11月15日	1894（M27）年
宮城女学校卒業年	1899（M32）年6月29日 22歳	1899（M32）年6月29日 21歳	1899（M32）年6月29日 21歳	1899（M32）年6月29日 21歳	1899（M32）年6月29日 20歳
卒業後の進路	1899−02年 宮城女学校教師、日本女子大・津田塾で学ぶ、1905年報知新聞社入社	1899−1900年 宮城女学校教師	1899−02年 シュネーダー夫人のHelper	1899−01年 Helper、福島伊達教会・飯坂教会で婦人伝道者として働く	1899−01年 Helper、1901−03年 幼稚園保母
結婚年	1903（M36）年1月 26歳	1900（M33）年 22歳	1902（M35）年7月1日 24歳	1903（M36）年8月 25歳	1903（M36）年 24歳
夫	磯村源透	加藤與五郎	笹尾粂太郎	左近義弼	酒井勝軍
夫職業	実業家	化学者	カント哲学者	聖書翻訳者	伝道者・音楽家など
生年－逝去	（1869）−1925年	1872−1967年	1871−1941年	1865−1944年	1874−1940年
逝去時年齢	56歳	95歳	70歳	79歳	66歳

参考資料：本稿Ⅰ．第7回卒業生の夫たち　で紹介した資料
生年月日、出身地（生地）、受洗年、洗礼教会・牧師は「仙台日本基督教会　会員名簿第一号」（日本基督教団仙台東一番丁教会所蔵）を参照
仙台日本基督教会（現・日本基督教団仙台東一番丁教会）転入日は、『日本基督教団　仙台東一番丁教会史』1991年、911頁を参照

宮城女学校の戦時期学籍簿の検討（2）
―成績表と学科目の推移―

佐藤 亜紀

はじめに

これまで資料室では、1937（昭和 12）年から 1941（昭和 16）年に宮城女学校に入学した生徒の学籍簿を基礎資料として、「1943（昭和 18）年度卒業生の学籍簿－宮城高等女学校の「学校挺身隊」―」（2021 年度）、「宮城女学校の戦時期学籍簿の検討－出身小学校の地域と保護者の職業―」（2022 年度）を『資料室年報』で発表してきた。

今年度は、学籍簿の「成績表」欄を取り上げ、戦時期における宮城女学校の成績表の形式の変遷に着目する。さらに、成績表の学科目[1]を各学年で比較し、学んだ科目の推移を時代背景とともに見ていきたい。表 1 は対象とした学年の、本稿での呼び名・入学年月・卒業年月・在籍生徒数を記したものである。

表 1

	呼び名	入学年月	卒業年月	在籍生徒数（名）
①	S12年次生	1937（昭和12）年4月	1942（昭和17）年3月	42
②	S13年次生	1938（昭和13）年4月	1943（昭和18）年3月	50
③	S14年次生	1939（昭和14）年4月	1944（昭和19）年3月	92
④	S15年次生	1940（昭和15）年4月	1945（昭和20）年3月	43
⑤	S16年次生	1941（昭和16）年4月	1945（昭和20）年3月	189

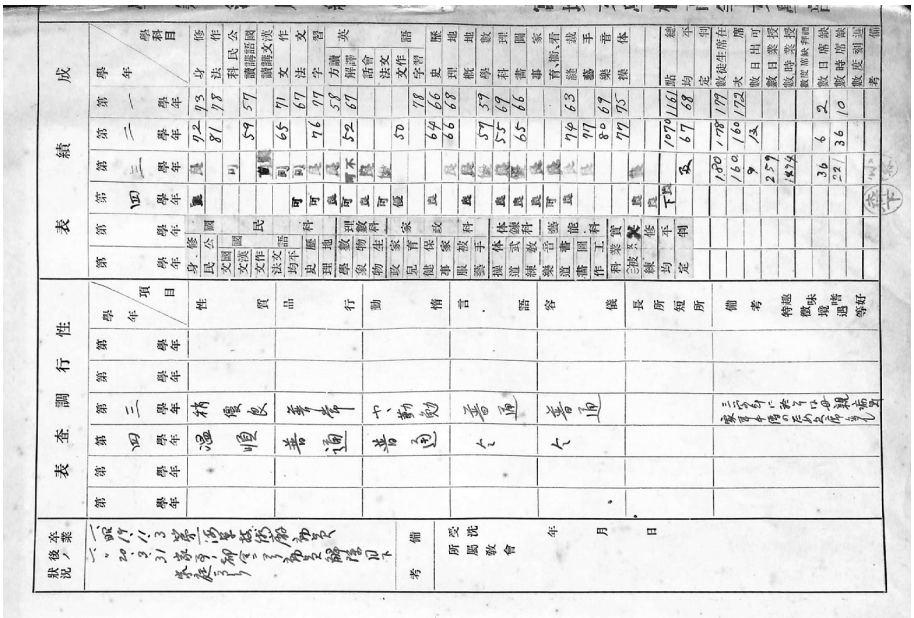
1. 成績表の形式の変遷

S12 年次生から S16 年次生の成績表を見ていくと、1）成績の評価法、2）選択科目、3）成績表の形式、で変化があった。まず資料 1 で、成績表の書式と上記 3 項目の特色を入学年次別に示す。いずれも任意の一名分を抽出し表示した。「○」は 100 点満点の素点、「●」は「優・良・可・不可」の評価判定が記載されていたことを示す。【表記法一部変改】[2]

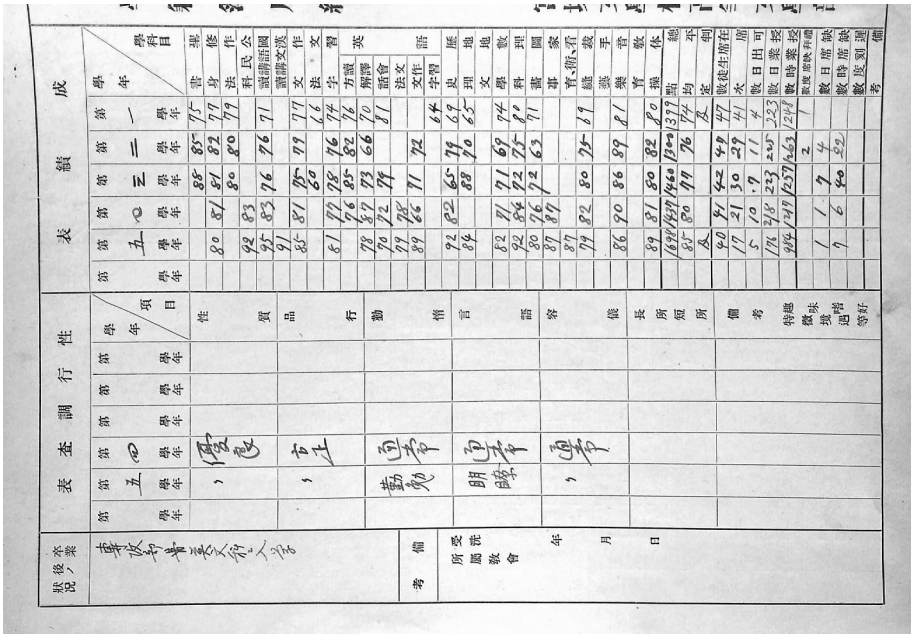
[1] 学科目とは、学籍簿裏面の成績表右端に示された「聖書・修身」以下の科目名を言う（後掲、写真 1. S12 年次生参照）。しかし、1943（昭和 18）年に「中等学校令」の「高等女学校規程」に準則したことにより、成績表左端には「国民科・理数科・家政科・体錬科・芸能科」の大区分（教科）が置かれ、さらに「修身・公民・国語（国文・漢文他）」という細かな区分（科目）が記されることとなった（後掲、写真 1. S16 年次生参照）。本稿では、基本的に中等学校令に準則するまでを「学科目」と呼び、中等学校令に準則した昭和 18 年度以降については「教科」「科目」を用いることとした。

[2] 表中の旧字体を新字体に改め、右書き（「書聖」）を左書き（「聖書」）とした。

写真1. 学籍簿（裏面）の成績表



S16年次生



S12年次生

資料1.成績表の書式

成　績　表							
第　学年	第五学年	第四学年	第三学年	第二学年	第一学年	学年／学科目	
			○	○	○	聖　書	
	○	○	○	○	○	修　身	
			○	○	○	作　法	
	○	○				公民科	
	○	○	○	○	○	国語講読	
	○					漢文講読	
	○	○	○	○	○	作　文	
			○		○	文　法	
	○	○	○	○	○	習　字	
		○	○	○	○	読方	英語
	○	○	○	○	○	読解	英語
	○	○	○		○	会話	英語
	○	○				文法	英語
	○	○	○	○		作文	英語
					○	習字	英語
	○	○	○	○	○	歴　史	
	○		○	○	○	地　理	
						地　文	
	○	○	○	○	○	数　学	
	○	○	○	○	○	理　科	
	○	○	○	○	○	国　書	
	○	○				家　事	
	○					看、衛、育	
	○	○	○	○	○	裁　縫	
						手　芸	
	○	○	○	○	○	音　楽	
						教　育	
	○	○	○	○	○	体　操	
	○	○	○	○	○	総　点	
	○	○	○	○	○	平　均	
	○				○	判　定	
	○	○	○	○	○	在籍生徒数	
	○	○	○	○	○	席　次	
	○	○	○	○	○	可出日数	
	○	○	○	○	○	授業日数	
	○	○	○	○	○	授業時間	
				○	○	礼拝欠席度数	
	○	○	○	○		欠席日数	
	○	○	○	○		欠席時間	
						遅刻度数	
						備　考	

S12 年次生

1）成績の評価法

・第一学年から第五学年まで素点表記。

2）選択科目

・第四学年から英語科目が①読解･会話･文法・作文の 4 科目、または②読方・読解・文法の 3 科目 + 手芸の選択制となる。人数は① 28 名､② 12 名であった。

3）成績表の形式

・本年次生及び S13 年次生の形式を便宜、「従来形式」と呼ぶ。

成　績　表							
第　学年	第五学年	第四学年	第三学年	第二学年	第一学年	学年／学科目	
				○	○	聖　書	
	○	○	○	○	○	修　身	
			○	○	○	作　法	
	○	○				公民科	
	○	○	○	○	○	国語講読	
						漢文講読	
	○	○	○	○	○	作　文	
			○		○	文　法	
	○	○	○	○	○	習　字	
		○	○		○	読方	英語
	○	○	○	○	○	読解	英語
				○	○	会話	英語
	○	○				文法	英語
	○		○	○		作文	英語
					○	習字	英語
		○	○	○	○	歴　史	
	○		○	○	○	地　理	
						地　文	
	○	○	○	○	○	数　学	
	○	○	○	○	○	理　科	
		○	○	○	○	国　書	
	○	○				家　事	
	○					看、衛、育	
	○	○	○	○	○	裁　縫	
						手　芸	
	○	○	○	○	○	音　楽	
	○					教　育	
	○	○	○	○	○	体　操	
	○	○				総　点	
	○	○	○	○	○	平　均	
						判　定	
	○	○		○	○	在籍生徒数	
	○	○	○	○		席　次	
	○	○		○	○	可出日数	
	○	○		○		授業日数	
	○	○		○		授業時間	
		○				礼拝欠席度数	
	○		○		○	欠席日数	
	○		○			欠席時間	
						遅刻度数	
						備　考	

S13 年次生

1）成績の評価法

・第一学年から第五学年まで素点表記。

2）選択科目

・第五学年から英語科目が①読解･文法･作文の 3 科目、または②読解の 1 科目＋手芸の選択制となる。人数は①23 名、② 26 名であった。

3）成績表の形式

・S12 年次生に示したように「従来形式」と呼ぶ。

成績表							
第五学年	第　学年	第四学年	第三学年	第二学年	第一学年	学年／学科目	
					○	聖　書	
○		○	○	○	○	修　身	
			○	○	○	作　法	
○		○				公民科	
		○	○	○	○	国語講読	
		○				漢文講読	
○		○	○	○	○	作　文	
			○		○	文　法	
○		○	○	○	○	習　字	
○	英				○	読方	英語
		○	○	○	○	読解	英語
○	教			○	○	会話	英語
○	武	○				文法	英語
			○	○		作文	英語
					○	習字	英語
		○	○	○	○	歴　史	
○		○	○	○	○	地　理	
						地　文	
○		○	○	○	○	数　学	
○	物象	○	○	○	○	理　科	
○	生物	○	○	○	○	国　書	
○		○				家　事	
○	保健					看、衛、育	
○		○	○	○	○	裁　縫	
						手　芸	
○		○	○	○	○	音　楽	
○						教　育	
○		○	○		○	体　操	
○		○	○	○	○	総　点	
○		○	○	○	○	平　均	
		○	○	○	○	判　定	
○			○	○	○	在籍生徒数	
○		○	○	○	○	席　次	
		○	○	○	○	可出日数	
		○	○	○	○	授業日数	
		○	○	○	○	授業時間	
			○	○	○	礼拝欠席度数	
		○	○	○	○	欠席日数	
○		○	○	○	○	欠席時間	
						遅刻度数	
						備　考	

S14 年次生

1）成績の評価法

・第一学年から第五学年まで素点表記。

2）選択科目

・第五学年から①英語または②被服の選択制となる。人数は① 49 名、② 38 名、空欄 5 名であった。

3）成績表の形式

・本来第五学年の成績を記入するはずの欄が空欄とされ、予備に置かれた欄に第五学年の成績が記入されている。

・空欄とされた欄には、これまで見られなかった科目名や複数あった科目を一つにまとめた記号と科目名が手書きで記されている。これらの科目名は、S15 年次生（第 4 学年～）、S16 年次生（第 3 学年～）に貼られた新たな科目表と概ね同じ内容であった。しかし、成績の表記は素点であった。

		成績表						
学年／項目		第五学年	第四学年	第三学年	第二学年	第一学年	学年／学科目	
修身	国民科	●	●				聖書	
公民	国民科		●	○	○	○	修身	
国文	国民科 国語		●	○	○	○	作法	
漢文	国民科 国語		●				公民科	
作文	国民科 国語		●	○	○	○	国語講読	
文法	国民科 国語						漢文講読	
平均	国民科 国語	●	●	○	○	○	作文	
歴史	国民科		●	○		○	文法	
地理	国民科	●		○	○	○	習字	
数学	理数科	●	●			○	読方	英語
物象	理数科	●	●	○	○	○	読解	英語
生物	理数科	●	●			○	会話	英語
家政	家政科	●					文法	英語
育児	家政科			○	○		作文	英語
保健	家政科	●	●			○	習字	英語
家事	家政科		●	○	○	○	歴史	
被服	家政科	●	●	○	○	○	地理	
手芸	家政科						地文	
体操	体錬科	●	●	○	○	○	数学	
武道	体錬科	●	●	○	○	○	理科	
教練	体錬科	●	●	○	○	○	国書	
音楽	芸能科	●	●	○			家事	
書道	芸能科	●	●				看、衛、育	
国書	芸能科		●	○	○	○	裁縫	
工作	芸能科			○			手芸	
実業科		●		○	○	○	音楽	
英×被○		●	●				教育	
修練		●	●	○	○	○	体操	
平均		●	●	○	○	○	総点	
判定		●	●	○	○	○	平均	
				○	○	○	判定	
			○	○	○	○	在籍生徒数	
			○	○	○	○	席次	
		○		○	○	○	可出日数	
		○		○	○	○	授業日数	
				○	○	○	授業時間	
					○		礼拝欠席度数	
		○	○		○	○	欠席日数	
		○	○		○	○	欠席時間	
							遅刻度数	
							備考	

S15 年次生

1）成績の評価法

・第一学年から第三学年まで素点、第四学年と第五学年は新たな科目表が左側に貼られ、優・良・可・不可で記載。

2）選択科目

・第四学年と第五学年の新たな科目表（左端の科目名欄のこと）の中では、「英語又は被服」と初めから選択制がとられている。しかし成績表では英語と被服どちらを選択したかは判別できない。

3）成績表の形式

・第四学年と第五学年は新たな科目表が左側に貼られる。

		成績表					
学年／項目		第四学年	第三学年	第二学年	第一学年	学年／学科目	
修身	国民科	●	●	○	○	修身	
公民	国民科			○	○	作法	
国文	国民科 国語		●			公民科	
漢文	国民科 国語			○	○	国語講読	
作文	国民科 国語		●			漢文講読	
文法	国民科 国語		●	○	○	作文	
平均	国民科 国語	●	●		○	文法	
歴史	国民科	●	●	○	○	習字	
地理		●	●		○	読方	英語
数学	理数科	●	●	○	○	読解	英語
物象	理数科	●	●			会話	英語
生物	理数科	●	●			文法	英語
家政	家政科	●		○		作文	英語
育児	家政科				○	習字	英語
保健	家政科	●		○	○	歴史	
家事	家政科		●	○	○	地理	
被服	家政科	●	●			地概	
手芸	家政科		●	○	○	数学	
体操	体錬科	●	●	○	○	理科	
武道	体錬科	●	●	○	○	国書	
教練	体錬科	●	●			家事	
音楽	芸能科	●	●			看、衛、育	
書道	芸能科	●	●	○	○	裁縫	
国書	芸能科		●	○		手芸	
工作	芸能科			○	○	音楽	
実業科				○	○	体操	
英×被○		●	●				
修練		●					
平均		●		○	○	総点	
判定			●	○	○	平均	
						判定	
			○	○	○	在籍生徒数	
			○	○	○	席次	
			○	○		可出日数	
			○			授業日数	
			○			授業時間	
						礼拝欠席度数	
			○	○	○	欠席日数	
			○	○	○	欠席時間	
						遅刻度数	
						備考	

S16 年次生

1）成績の評価法

・第一学年と第二学年は素点、第三学年と第四学年は新たな科目表が左側に貼られ、優・良・可・不可で記載。

2）選択科目

・第三学年と第四学年の新たな科目表の中では、「英語又は被服」と初めから選択制がとられている。しかし成績表では英語と被服どらを選択したかは判別できない。

3）成績表の形式

・これまで学科表の一番上に置かれていた「聖書」の科目自体が無い。「修身」から開始されている。

・第三学年と第四学年は新たな科目表が左側に貼られる。

2. 学科目の推移

資料 1 を見ていくと、例えば、第一学年で学んだ科目が S12 年次生と S16 年次生では変わっていることに気が付く。ここではまず、各学年で学んだ科目を年次生ごとに記し科目の推移を見ていくこととする（資料 2）。

資料2. 各学年で学んだ科目を年次生ごとに記した表

第一学年								第二学年								第三学年						
S16	S15	S14	S13	S12	年		※	S17	S16	S15	S14	S13	年		S18	S17	S16	S15	S14	年		
S十六年次生	S十五年次生	S十四年次生	S十三年次生	S十二年次生	第一学年	学科目		S十六年次生	S十五年次生	S十四年次生	S十三年次生	S十二年次生	第二学年	学科目	S十六年次生	S十五年次生	S十四年次生	S十三年次生	S十二年次生	第三学年	学科目	
科目なし		○	○	○	聖　書			科目なし			○	○	聖　書		新たな科目表				○	聖　書		
○	○	○	○	○	修　身			○	○	○	○	○	修　身			○	○	○	○	修　身		
○	○	○	○	○	作　法			○	○	○	○	○	作　法			○	○	○	○	作　法		
					公民科								公民科							公民科		
○	○	○	○	○	国語講読			○	○	○	○	○	国語講読			○	○	○	○	国語講読		
					漢文講読								漢文講読							漢文講読		
○	○	○	○	○	作　文			○	○	○	○	○	作　文			○	○	○	○	作　文		
○	○	○	○	○	文　法								文　法			○	○	○	○	文　法		
○	○	○	○	○	習　字			○	○	○	○	○	習　字			○	○	○	○	習　字		
○	○	○	○	○	読方	英語						○	読方	英語				○	○	読方	英語	
○	○	○	○	○	読解			○	○	○	○	○	読解			○	○	○	○	読解		
	○	○	○	○	会話					○	○		会話						○	会話		
					文法								文法							文法		
					作文			○	○	○	○	○	作文			○	○	○	○	作文		
○	○	○	○	○	習字								習字							習字		
○	○	○	○	○	歴　史			○	○	○	○	○	歴　史			○	○	○	○	歴　史		
○	○	○	○	○	地　理			○	○	○	○	○	地　理			○	○	○	○	地　理		
					地　文								地　文							地　文		
○	○	○	○	○	数　学			○	○	○	○	○	数　学			○	○	○	○	数　学		
○	○	○	○	○	理　科			○	○	○	○	○	理　科			○	○	○	○	理　科		
○	○	○	○	○	国　書			○	○	○	○	○	国　書			○	○	○	○	国　書		
					家　事								家　事			○				家　事		
					看、衛、育								看、衛、育							看、衛、育		
○	○	○	○	○	裁　縫			○	○	○	○	○	裁　縫			○	○	○	○	裁　縫		
					手　芸			○					手　芸			○				手　芸		
○	○	○	○	○	音　楽			○	○	○	○	○	音　楽			○	○	○	○	音　楽		
					教　育								教　育							教　育		
○	○	○	○	○	体　操			○	○		○	○	体　操			○	○	○	○	体　操		

・※ S12年次生が第一学年の時、昭和何年にあたるか年号の行を作成した。第二学年以降も同様とする。
・学んだ教科目を○で記す。
・S16年次生は四学年制となったため、第五学年は存在しない。

資料 2 から、科目の推移は、特に「聖書」と「英語」で見られることがわかる。そこで「聖書」と「英語」科目のみを抜き出した資料 3 と、それ以外の科目を示した資料 4 を作成してみた。

第四学年						
S19	S18	S17	S16	S15	年	
S十六年次生	S十五年次生	S十四年次生	S十三年次生	S十二年次生	第四学年 ／ 学科目	
新たな科目表	新たな科目表				聖　書	
		○	○	○	修　身	
					作　法	
		○	○	○	公民科	
		○	○	○	国語講読	
		○			漢文講読	
		○	○	○	作　文	
					文　法	
		○	○	○	習　字	
			○	○	読方	英語
		○	○	○	読解	英語
				○	会話	英語
		○	○	○	文法	英語
				○	作文	英語
					習字	英語
		○	○	○	歴　史	
		○			地　理	
					地　文	
		○	○	○	数　学	
		○	○	○	理　科	
		○	○	○	国　書	
		○	○	○	家　事	
					看、衛、育	
		○	○	○	裁　縫	
					手　芸	
		○	○	○	音　楽	
					教　育	
		○	○	○	体　操	

第五学年					
S19	S18	S17	S16	年	
S十五年次生	S十四年次生	S十三年次生	S十二年次生	第五学年 ／ 学科目	
新たな科目表				聖　書	
	○	○	○	修　身	
				作　法	
	○	○	○	公民科	
		○	○	国語講読	
			○	漢文講読	
	○	○	○	作　文	
				文　法	
	○	○	○	習　字	
	英又は被			読方	英語
		○	○	読解	英語
	教練		○	会話	英語
	武道	○	○	文法	英語
		○	○	作文	英語
				習字	英語
			○	歴　史	
	○	○	○	地　理	
				地　文	
	○	○	○	数　学	
	物象	○	○	理　科	
	生物		○	国　書	
	○	○	○	家　事	
	保健	○	○	看、衛、育	
	○	○	○	裁　縫	
				手　芸	
	○	○	○	音　楽	
	○	○		教　育	
	○	○	○	体　操	

資料3.聖書と英語科目表

第一学年						
S16	S15	S14	S13	S12	年	
S十六年次生	S十五年次生	S十四年次生	S十三年次生	S十二年次生	第一学年／学科目	
科目なし		○	○	○	聖　書	
○	○	○	○	○	読方	英語
○	○	○	○	○	読解	
	○	○	○	○	会話	
					文法	
					作文	
○	○	○	○	○	習字	

第二学年						
S17	S16	S15	S14	S13	年	
S十六年次生	S十五年次生	S十四年次生	S十三年次生	S十二年次生	第二学年／学科目	
科目なし			○	○	聖　書	
				○	読方	英語
○	○	○	○	○	読解	
		○	○		会話	
					文法	
○	○	○	○	○	作文	
					習字	

第三学年						
S18	S17	S16	S15	S14	年	
S十六年次生	S十五年次生	S十四年次生	S十三年次生	S十二年次生	第三学年／学科目	
科目なし				○	聖　書	
英語又は被服の選択制（新たな科目表）			○	○	読方	英語
	○	○	○	○	読解	
				○	会話	
					文法	
	○	○	○	○	作文	
					習字	

資料4.それ以外の科目表

第一学年					
S16	S15	S14	S13	S12	年
S十六年次生	S十五年次生	S十四年次生	S十三年次生	S十二年次生	第一学年／学科目
○	○	○	○	○	修　身
○	○	○	○	○	作　法
					公民科
○	○	○	○	○	国語講読
					漢文講読
○	○	○	○	○	作　文
○	○	○	○	○	文　法
○	○	○	○	○	習　字
○	○	○	○	○	歴　史
○	○	○	○	○	地　理
					地　文
○	○	○	○	○	数　学
○	○	○	○	○	理　科
○	○	○	○	○	国　書
					家　事
					看、衛、育
○	○	○	○	○	裁　縫
					手　芸
○	○	○	○	○	音　楽
					教　育
○	○	○	○	○	体　操

第二学年					
S17	S16	S15	S14	S13	年
S十六年次生	S十五年次生	S十四年次生	S十三年次生	S十二年次生	第二学年／学科目
○	○	○	○	○	修　身
○	○	○	○	○	作　法
					公民科
○	○	○	○	○	国語講読
					漢文講読
○	○	○	○	○	作　文
					文　法
○	○	○	○	○	習　字
○	○	○	○	○	歴　史
○	○	○	○	○	地　理
					地　文
○	○	○	○	○	数　学
○	○	○	○	○	理　科
○	○	○	○	○	国　書
					家　事
					看、衛、育
○	○	○	○	○	裁　縫
○					手　芸
○	○	○	○	○	音　楽
					教　育
○	○		○	○	体　操

第三学年					
S18	S17	S16	S15	S14	年
S十六年次生	S十五年次生	S十四年次生	S十三年次生	S十二年次生	第三学年／学科目
新たな科目表	○	○	○	○	修　身
	○	○	○	○	作　法
					公民科
	○	○	○	○	国語講読
					漢文講読
	○	○	○	○	作　文
	○	○	○	○	文　法
	○	○	○	○	習　字
	○	○	○	○	歴　史
	○	○	○	○	地　理
					地　文
	○	○	○	○	数　学
	○	○	○	○	理　科
	○	○	○	○	国　書
	○				家　事
					看、衛、育
	○	○	○	○	裁　縫
	○				手　芸
	○	○	○	○	音　楽
					教　育
	○	○	○	○	体　操

第四学年						
S19	S18	S17	S16	S15	年	
S十六年次生	S十五年次生	S十四年次生	S十三年次生	S十二年次生	第四学年 ／ 学科目	
科目なし	／				聖　書	
英語又は被服の選択制（新たな科目表）	英語又は被服の選択制（新たな科目表）		○	○	読方	英語
		○	○	○	読解	
				○	会話	
		○	○	○	文法	
				○	作文	
					習字	

第五学年					
S19	S18	S17	S16	年	
S十五年次生	S十四年次生	S十三年次生	S十二年次生	第五学年 ／ 学科目	
／				聖　書	
英語又は被服の選択制（新たな科目表）	英語又は被服の選択制			読方	英語
		○	○	読解	
			○	会話	
		○	○	文法	
		○	○	作文	
				習字	

第四学年						
S19	S18	S17	S16	S15	年	
S十六年次生	S十五年次生	S十四年次生	S十三年次生	S十二年次生	第四学年 ／ 学科目	
新たな科目表	新たな科目表	○	○	○	修　身	
					作　法	
		○	○	○	公民科	
		○	○	○	国語講読	
		○			漢文講読	
		○	○	○	作　文	
					文　法	
		○	○	○	習　字	
		○	○	○	歴　史	
		○			地　理	
					地　文	
		○	○	○	数　学	
		○	○	○	理　科	
		○	○	○	国　書	
		○	○	○	家　事	
					看、衛、育	
		○	○	○	裁　縫	
					手　芸	
		○	○	○	音　楽	
					教　育	
		○	○	○	体　操	

第五学年				
S19	S18	S17	S16	年
S十五年次生	S十四年次生	S十三年次生	S十二年次生	第五学年 ／ 学科目
新たな科目表	○	○	○	修　身
				作　法
	○	○	○	公民科
		○	○	国語講読
			○	漢文講読
	○	○	○	作　文
				文　法
	○	○	○	習　字
			○	歴　史
	○	○	○	地　理
				地　文
	○	○	○	数　学
	物象	○	○	理　科
	生物		○	国　書
	○	○	○	家　事
	保健	○	○	看、衛、育
	○	○	○	裁　縫
				手　芸
	○	○	○	音　楽
	○	○		教　育
	○	○	○	体　操

資料 4 から、「聖書」と「英語」以外の科目は、年度が進んでも各学年で学ぶ科目にそれほど大きな違いはなかった。そこで資料 3 の「聖書」と「英語」の科目の推移を時代背景とともに見ていくことにしよう。

「聖書」科目

「聖書」は、S12 年次生が第三学年まで、S13 年次生は第二学年まで、S14 年次生では第一学年のみ学んでいる。すなわち、1939（昭和 14）年までは宮城女学校の学科目として聖書の授業があったが、翌 1940（昭和 15）年から 1944（昭和 19）年まで聖書の授業が行われていないことになる。特に、S16 年次生では、成績表から「聖書」の欄自体が消えてしまった（前章 1. 成績表の形式の変遷 S16 年次生参照）。この理由について、『資料室年報』第 27 号に詳しく記されているので抜粋して紹介する [3]。

> 1939（昭和 14）年 6 月、宮城県に文部省の視察団が訪れその二日後、宮城女学校に来校した。彼らは、本校のキリスト教教育の方針について質問、忠告等を行った。翌 1940（昭和 15）年 7 月 26 日、県がミッションスクールの校長（宮城女学校、東北学院、尚絅女学校）を集め、今後の対応に関する「関係学校長会議」を開く。そこで、聖書教育については「聖書教授ハ必ズ課外二於テナスコト」となり、他に礼拝や奉安殿についても提言され、「直チニ実行ニ移スコト」とされる。その結果、宮城女学校では 1940（昭和 15）年に学則改正申請が許可され、1941 年 4 月から聖書を課外科目とし、41 年の歴史を持つ聖書専攻科も 3 月に廃止となった。

成績表の「聖書」科目の推移は、まさにこの事実を如実に示すものと言える。

「英語」科目

先ず学んだ科目を学年ごとに見ていく（資料 3 を参照）。

・第一学年

「読方」「読解」「会話」「習字」の 4 科目が S12 年次生から S15 年次生まであった。しかし、「会話」は S16 年次生からなくなり、3 科目となった。「習字」（おそらく書き取りの授業内容と推測）は、S12 年次生から S16 年次生まで、第一学年でのみ行われた。

・第二学年

「読解」「作文」が S12 年次生から S16 年次生まであった。「読方」は S12 年次生のみ

[3] 佐藤亜紀「1943（昭和 18）年度卒業生の学籍簿―宮城高等女学校の「学校挺身隊」―」、『宮城学院資料室年報』第 27 号（2021 年度）、学校法人宮城学院、74 頁 -77 頁。

行われた。「会話」はS13・S14年次生にあり、それ以降はなかった。なお、S12年次生にも「会話」は行われなかったようである。

・第三学年

「読解」「作文」がS12年次生からS15年次生まであった。「読方」はS12・S13年次生、「会話」はS12年次生にあり、それ以降はなかった。S16年次生は、英語が被服との選択科目となる。

・第四学年

「読解」「文法」がS12年次生からS14年次生まであった。「読方」はS12・S13年次生、「会話」「作文」はS12年次生にあり、それ以降はなかった。S15・S16年次生は、英語が被服との選択科目となる。

・第五学年

S12年次生は、「読解」「会話」「文法」「作文」の4科目あり、S13年次生はそこから「会話」がなくなる。S14・S15年次生は、英語が被服との選択科目となる。

上記の結果から、英語を声に出して話す・読む授業である「会話」「読方」は早めになくなり、「読解」「文法」「作文」は、英語が被服と選択制になる前年まで行われていたことがわかった。時局柄、英語の授業科目として「会話」など英語を声に出す授業がなくなることはやむを得ないことであったのだろう。さらに言えば、本校の「会話」「読方」等の授業は、アメリカ人宣教師のネイティブスピーカーによって行われていた。しかし、宣教師らは、1941（昭和16）年12月8日の日米開戦を機に身柄を拘束され、カトリック元寺小路教会に収容された。その生活は半年にも及び、その後、母国に送還させられた[4]。「会話」の授業が行われなくなるのもこの年である。これまでネイティブスピーカーにより行われていた、「英語を話す」という授業科目はこれらの理由でも行うことができなくなっていったのだろう。よって、日本人英語教師でも担当可能な「読解」「文法」「作文」など、話す以外の英語科目が続けられたと思われる。本校の英語教育では、被服との選択制

[4] ハンセン・リンゼイ両先生は、1941年10月18日（土）東条英機内閣が誕生したことをきっかけに離仙し、10月21日に横浜出帆の船で帰国した。この離仙の日付について『宮城学院七十年史』は、東条内閣成立当日の10月18日（土）午後としているが、本学教授（当時）犬飼公之氏が、佐久間むつ氏（宮城女学校専攻部英文科25回卒）の聴き取りをもとに著した「ひとこまの歴史ハンセン、リンゼイ両先生離日」（『宮城学院広報』第78号、1995年4.28）では、「1941年11月のある日」とし、なおその日を「日曜日」と記している。この記事を読んで佐久間氏から改めてお話を伺った本学教授（当時）大平聡氏も、両先生の離仙の日を「日曜日」と記している（『資料室年報』第8号、2001年度）。以上を総合して考えると、両先生の離仙は東条内閣成立の翌日、1941年10月19日（日）のことと判断される。

そしてこの年の12月8日（月）、日本軍が真珠湾を攻撃し、アメリカとの戦争が始まると、翌9日、他のアメリカ人教師は本校を辞職し、10日には東北学院の外国人宣教師と共にカトリック元寺小路教会に収容された。収容期間は半年に及び、翌1942年6月、交換船で帰国した（『宮城学院七十年史』1956年、34-35頁）。

になる直前まで、英語の理解力や読解力を養う授業が維持されていたことがわかった。

次に入学した年度で見てみる。S12 年次生は、第五学年までに英語 6 科目（読方・読解・会話・文法・作文・習字）をすべて学ぶことができ、どの学年でも 4 科目、英語を学んでいた（二学年のみ 3 科目）。S13 年次生も同じく第五学年まで英語があるが、S12 年次生と比べて科目数は減っている。S14 年次生以降は、第一学年で 3 ～ 4 科目学ぶことができていたが、学年が上がるにつれ 2 科目、さらには英語と被服の選択制へと変わっていった。英語と被服の選択制になるのは、S14 年次生が第五学年、S15 年次生が第四学年、S16 年次生が第三学年、いずれも 1943（昭和 18）年からであった。

その理由について、『宮城学院七十年史』（昭和 31 年、35 頁）によると、1943 年、前年にあった宮城県中等学校長会議で英語を随意科目とする決議を受け、本校は英語を選択科目とし、英語か被服のいずれかを選択させることとした。さらに、同年 4 月「中等学校令」の改定により、校名を「宮城女学校」から「宮城高等女学校」と改め、宮城県の高等女学校学則をほとんど逐条そのまま採用した新学則で、定員千名・四学年制・五学級編成へと改めたのである（『宮城学院八十年小誌』1966 年、55 頁）。前章 1. 成績表の形式の変遷で、S14 年次生が第五学年時に加えられた手書きの科目表や、S15 年次生が第四・五学年、S16 年次生が第三・四学年時に見られた左側に新しく貼られた科目表とは、この昭和 18 年の「中等学校令」の改定によるもので、宮城県の公立の高等女学校と同じ科目表を採用したということであろう。このことは、これまでその設立目的に従い、キリスト教に基づく独自の教育を行ってきた宮城女学校が、その独自性を失うことを意味する。成績表の「聖書」や「英語」科目の推移から、戦時期の宮城女学校の苦しい状況が見えてくるように思う。しかしながら、これらのことは学校存続を図るためのやむを得ない措置であったのではないだろうか。

では、1943（昭和 18）年の「中等学校令」の改定による新たな教科目とはどのようなものであったのだろう。次章で見ていくこととする。

3.「中等学校令」による新たな教科目

1943（昭和 18）年 1 月 21 日、「中等学校令」が公布された。これは、中等学校の目的・制度などを規定した勅令で「皇国ノ道ニ則リテ高等普通教育又ハ実業教育ヲ施シ、国民ノ錬成ヲ為スヲ以テ目的」（第一条）とし、高等普通教育を中学校と高等女学校が、実業教育を実業学校がそれぞれ行うこととした。この中等学校令に基づき、1943 年 3 月 2 日「中学校規程」・「高等女学校規程」・「実業学校規程」が制定され、それぞれの教育目標・教科目等が規定され、4 月 1 日からの実施となった。これらの新たな制度では、修業年限が従来の 5 年から 4 年に短縮され、教科においては修練が課せられた[5]。

[5] 『学制百五十年史』文部科学省、2022 年、72 頁。

「高等女学校規程」第一章「総則」第二条は、教科について次のように規定している。

第二条　高等女学校ニ於テハ教科及修練ヲ課スベシ。教科ハ之ヲ分チテ基本教科及増課教科トス。基本教科ハ国民科、理数科、家政科、体錬科及芸能科トシ増課教科ハ家政科、実業科及外国語科トス。増課教科ハ其ノ内一又ハ二ヲ課セザルコトヲ得。外国語科ヲ増加スル場合ハ之ヲ其ノ他ノ増課教科ト選択履修セシムベシ。（以下、略）[6]

さらに第三条から第九条にかけてそれぞれの教科の要旨と具体的な科目名があげられている。『学制百年史 記述編』に上記部分を簡潔にまとめた箇所があるので引用する。

高等女学校は、教科を基本教科と増加教科に分け、基本教科は国民科（修身・国語・歴史・地理）、理数科（数学・物象・生物）、家政科（家政・育児・保健・被服）、体錬科（教練・体操・武道）および芸能科（音楽・書道・図画・工作）とし、増課教科は家政科、実業科（農業・商業）、外国語科（英語・独語・仏語・支那語・マライ語・その他）とした。そして増課教科はその内の一または二を課さないことができるとした。外国語科を増課する場合はその他の増課教科と選択履修させた[7]。

「高等女学校規程」（第二条～第九条）にある教科目と昭和18年に本校の成績表に貼られた科目表（図1）を比べると、本校の科目はほぼこの規定に則っていることがわかる。さらに本校では外国語科（英語）を増課教科としたため、家政科（被服）との選択科目としたことがわかった。

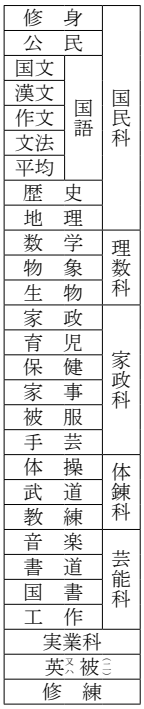


図1. 昭和18年から宮城高等女学校の成績表の左側に貼られた教科目表

[6] 『学制百年史 資料編』文部省、1972年、144頁-145頁。適宜、句読点を補った。
[7] 『学制百年史 記述編』文部省、1972年、589頁。

4. おわりに

今年度は、1937（昭和 12）年から 1941（昭和 16）年の学籍簿の「成績表」に着目し、その形式の変遷と、1937（昭和 12）年から 1944（昭和 19）年に本校で学ばれていた科目を知ることができた。これにより、1943（昭和 18）年に公布された「中等学校令」を調べるに至り、当時の教育目的が「皇国ノ道ニ則リテ国民ノ錬成ヲ為ス」とされ、本校の「成績表」に見る形式と科目の変化は、国家的要請に即応すべく推し進められていった教育体制を反映した一つだと言えよう。その後はさらなる時局の悪化により、宮城高等女学校の教室の一部が学校工場化され（専攻科生徒）、さらに学徒勤労動員により、最上級生たちは横須賀海軍航空技術廠、多賀城海軍工廠へと動員された。

2021 年から本校の戦時期における学籍簿の調査を始め、資料室年報で発表してきた。「学籍簿」という資料から戦争が本校の教育にどのように入り込んできたのか、その一端に触れることができたのではないかと思う。今後は、戦後の「学籍簿」を探し、戦時期との違いを明らかにしていきたい。

謝辞：本稿を成すにあたり、成績表の掲載方法について本学名誉教授菊池勇夫氏（一関市博物館館長）、本学名誉教授大平聡氏にご教示をいただきました。この場を借りて感謝申し上げます。

（さとう　あき / 宮城学院資料室職員）

宮城学院の植物たち　その 4――ツリバナ――

栗原　健
木村春美

「宮城学院の植物たち」のシリーズ第 4 回はツリバナを取り上げます。まず、ツリバナのつくりや生態について木村が紹介し、自然界の摂理とレジリエンス（回復力・再起力）について見ていきます。その後に栗原が、新約聖書中のイエスの言葉や星野富弘さんの詩画をもとに、ツリバナが示してくれるメッセージを読み解いてみます。

1. ニシキギ科ニシキギ属　ツリバナ

山と溪谷社から出ている『木に咲く花 離弁花②』に、「一度見たら忘れられない花」「実物ぴったりの名前」（p. 420）とあります。ツリバナを見たことがない方は、この年報のページをめくって写真（白黒ですが）を見る前に、どんな花か想像してみてください。その名前の通りに、直径 6 ～ 8 ミリほどの花が数個から 10 数個が柄からぶら下がって咲きます。花の色は淡緑と形容している図鑑も淡紫と表現している図鑑もあります。桜の御衣黄（ギョイコウ）や鬱金桜（ウコンサクラ）をご存知の方は、それよりさらに薄い色合いだと思っていただくと「近からず遠からず」というところでしょうか。花弁・めしべ・芽鱗はいずれも 5 枚、枝分かれした柄にぶら下がり、いくつも集まって、でもそれぞれが気の向くままにあっちこっちを向きながら丸っこく咲く姿が愛らしい花です。直径 1 センチほどの球形の白い実ができますが、実は初秋に濃紅色に熟し、それがやはり 5 つに割れ、中からこれまた 5 個の種が顔を出します。そのぶら下がった姿を星野富弘さんが詩画にしておられます。

葉は対生で、長さが 3 ～ 5 センチの少し長めの卵形、鋸葉は細かいギザギザで、葉が波打つのが特徴です。樹木は高さ 1 ～ 4 メートルとされ、山地の林に生える落葉低木ですが、その可憐で風情ある姿から茶室のある日本庭園にもよく植えられているそうです。木村が日本庭園で一度も気づいたことがないのは、素人には花や実の時期でないと見分けにくいからでしょうか。「緑を守り育てる宮城県連絡会議」事務局長の佐藤修さんも、特に花に出会うのは稀で、見ることができた時はラッキーだと思うとお話しくださいました。花期が短いためかもしれません。

蛇足ですが、ツリバナを愛でるなら雨の日を推します。葉が艶を増し、雨粒を湛えた花が輝いて見えます。

2. 自然の営みとレジリエンス

宮城学院敷地内の遊歩道脇で見つけた写真左のツリバナの樹は、実は、強風で倒れた大木の巻き添えになり、根こそぎやられてしまったようです。倒木に伴い斜面崩壊も起こっていました。倒木や土砂の下で密かに命を繋いでいてくれるのではないかと、あの可憐な花と実に遊歩道でまた出会いたいと願う気持ちから、なんとなくその辺りを捜してみていますが、未だ再会は果たせていません。けれども、森の中では倒木や斜面崩壊のような変化や変動は日々あちこちで繰り返されている日常であり、命の再生の営みの一部です。「宮城学院の植物たち」のシリーズ第 2 回『資料室年報第 26 号』（2020 年度）で取り上げたカヤランも、強風の後で遊歩道を歩くと枝に絡みついたまま落下しているのを毎年目にします。救出作戦と称して、落下したカヤランの花芽をなんとか開花させ命をつなごうと試みますが、ほぼ確実に不成功に終わります。そして、それでも、モミの大木を見上げるとあの愛らしい黄色い花を毎年確認することができます。今年、仙台市太白区にある治山の森で山桜の幹にカヤランを見つけました。前述の佐藤修さんも桜の木でカヤランを見たのは初めてだとおっしゃっていました。「条件が整ったのでしょう」とも。自然は弱くもあり強くもあるのだと教えられている気がします。

東日本大震災は「壊滅的」と表現されるような被害をもたらしました。それでも、壊滅したと考えられていた海岸近くで、高い樹々は倒れてしまっていても、低木やかつて森であったところで暮らしていた動植物の中にはしぶとく命を繋いだものがいたことを、例えば、東北学院大学の平吹喜彦先生が福島大学の研究者と共同で震災後の里浜などを調査し報告していらっしゃいます[1]。自律的に再生しつつある地域、復興のために人の手が入り植林などが進んだ地域、その両者が関わりを持ちながら植生を変化させていく様相の記述はズブの素人の理解を超えていますが、それでも自然に備わるレジリエンスを感じることはできます。

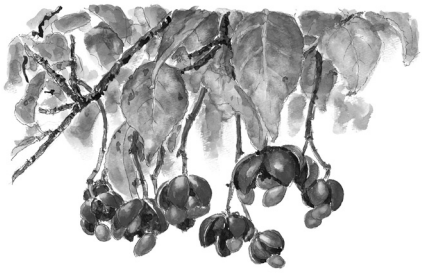
2021年5月10日撮影

2022年5月8日撮影

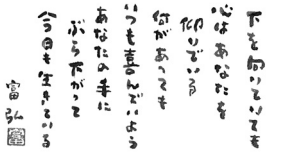
3. イエスの言葉から

植物と聖書の間には、深いつながりがあります。聖書には花や樹木について触れた言葉が数多くありますが、中でもよく知られているのが、マタイによる福音書第 6 章にあるイエスの言葉です。「野の花がどのように育つのか、注意して見なさい。働きもせず、紡ぎもしない。しかし、言っておく。栄華を極めたソロモンでさえ、この花の 1 つほどにも着飾ってはいなかった。今日は生えていて、明日は炉に投げ込まれる野の草でさえ、神はこのように装ってくださる。まして、あなたがたはなおさらのことではないか、信仰の薄い者たちよ」（28 節 b-30 節 新共同訳）。神の愛を受けて無心に咲いている花の姿から、余計な思い煩いにとらわれずに素直に生きる大切さが説かれています。ここでイエスが指している植物については、アネモネと見る説、アザミとする説などがありますが[2]、健気に咲いているどの花についても言うことができるでしょう。

このイエスのメッセージは、この星野富弘さんの詩画[3]（富弘美術館様提供）の中にも響いています。



「下を向いていても
心はあなたを
仰いでいる
何があっても
いつも喜んでいよう
あなたの手に
ぶら下がって
今日も生きている」



ツリバナの特徴は、柄からぶら下がって咲く花の姿です。ぶら下がることは、上の柄が支えてくれるからこそ可能になります。その支えを信じて素直に咲く、それは確かに神を信頼して生きる姿と重なりますね。

この姿は、イエスの別の言葉を想起させます。ヨハネによる福音書には、十字架にかかる前夜、イエスは弟子たちに次のように語ったと記されています。「わたしにつながっていなさい。わたしもあなたがたにつながっている。（略）わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。」（ヨハネによる福音書第 15 章 4-5 節 新共同訳）

この言葉を読む時、私たちは、「何をしたら、自分はイエスとつながっていられるだろうか」という点に集中しがちです。しかし、ここでまず味わいたいことは、イエスが私たちとつながって下さっている、私たちを決して離さずに支えて下さっているからこそ、自分もつながることができるのだという、その恵みでしょう。星野さんの詩のように、「あ

なたの手に　ぶら下がって　今日も生きている」ことができるのは、すでにイエスが上から掴んでいて下さるからです。

「ぶら下がって生きる」と言うと、依存して受身的に生きているような印象があるかも知れませんが、それは違います。自分を支えてくれる超越的存在に信の土台を置くことは、困難に呑まれずに強く歩んでいく力を与えるものです。頸髄損傷のために手足の自由を失いつつも、口に絵筆をくわえて美しい作品を描いて来た星野さんの生き方に、その力は現れています。それはまた、自律的に再生していく植物のレジリエンスとも重なり合うものがあるでしょう。

このように、植物の姿は私たちに多くのことを教えてくれます。「植物に取り囲まれているわれらは、このうえもない幸福である」（『植物知識』より）という牧野富太郎の言葉は、聖書の言葉と併せて読む時に、一層真実味を帯びて来ますね。

（注）

1. 山ノ内 崇志・曲渕 詩織・川越 清樹・平吹 喜彦・黒沢 高秀「東北地方太平洋沖地震の津波後に自然に再生したクロマツ低木疎林と生育基盤盛土上に植林された海岸防災林の植生およびその表層土壌環境」『植生学会誌』2021 年、第 38 巻、第 2 号、pp. 191-208。
2. 荒井献「『野の花』はあざみ―イエスの自然観に寄せて」『荒井献著作集』第 9 巻、岩波書店、2002 年、83-95 節。
3. 星野富弘『あの時から空がかわった』いのちのことば社、2016 年、p. 78。

（くりはら　けん / 宮城学院女子大学一般教育部准教授）
（きむら　はるみ / 宮城学院女子大学一般教育部教授）

□彙報
2023（令和 5）年度彙報

宮城学院資料室

資料の蒐集・受贈関係（2023年3月1日～2024年2月29日）
以下の資料受贈について感謝をもって報告いたします。（敬称略。冒頭の4桁数字は受贈・受領月日）

（1）定期刊行物関係

受領月日	刊行物名	発行元
0303	青淵　第888号　3月号	渋沢栄一記念財団
0308	國學院大學研究開発推進機構　機構ニュース	國學院大学
0310	校史　Vol.33	國學院大學研究開発推進機構國學院大學
0320	東北学院大学博物館情報誌　第5号	東北学院大学博物館
0320	第8回発表会　報告集	近代仙台研究会
0403	キリスト教史学会報　第184号	キリスト教史学会
0403	東北学院時報　第774号	学校法人東北学院
0403	東京大学　文書館ニュース　vol.70	東京大学文書館
0403	青淵　第889号　4月号	渋沢栄一記念財団
0403	白金通信　No.514	明治学院大学
0412	原阿佐緒記念館だより　第57号	原阿佐緒記念館
0510	青淵　第890号　5月号	渋沢栄一記念財団
0522	東北大学史料館だより　No.38	東北大学学術資源研究公開センター史料館
0605	青淵　第891号　6月号	渋沢栄一記念財団
0705	白金通信　No.515	明治学院
0708	青淵　第892号　7月号	渋沢栄一記念財団
0714	東北学院時報　第775号	学校法人　東北学院
0714	國學院大學研究開発推進機構　機構ニュース	國學院大学
0730	キリスト教史学会報　第185号	キリスト教史学会
0808	青淵　第893号　8月号	渋沢栄一記念財団

0828	東北学院時報　第776号	学校法人　東北学院
0905	青淵　第894号　9月号	渋沢栄一記念財団
1006	白金通信　No.516	明治学院
1006	東京大学文書館ニュース　Vol.71	東京大学文書館
1006	東北大学史料館だより　No.39	東北大学学術資源研究公開センター史料館
1006	青淵　第895号　10月号	渋沢栄一記念財団
1023	東北学院時報　第777号	学校法人　東北学院
1105	青淵　第896号　11月号	渋沢栄一記念財団
1207	東北学院時報　第778号	学校法人　東北学院
1207	東北学院同窓会報	東北学院同窓会
1207	白金通信　No.517	明治学院
1207	青淵　第897号 12月号	渋沢栄一記念財団
1220	キリスト教史学会報　第186号	キリスト教史学会
0105	青淵　第898号　1月号	渋沢栄一記念財団
0202	青淵　第899号　2月号	渋沢栄一記念財団
0202	東北学院時報　第779号	学校法人　東北学院

（2）書籍関係（紀要・年報・目録・図録を含む）

受領月日	刊行物名	発行元
0308	GCAS　Report　Vol.12	学習院大学大学院人文科学研究科　アーカイブズ学専攻
0320	英語英文学研究所　第47号	東北学院大学英語英文学研究所
0320	フェリス女学院歴史資料館紀要　第75号	学校法人フェリス女学院
0320	東北学院史資料センター年報　Vol.8	東北学院史資料センター年報編集委員会
0329	渋沢研究　第35号	渋沢史料館
0403	北海道大学大学文書館年報　第18号	北海道大学大学文書館
0403	東京大学文書館紀要　第41号	東京大学文書館
0413	立教学院百五十年史　第１巻	立教学院百五十年史編纂委員会
0413	大学史紀要　第29号	明治大学史資料センター
0413	明治学院歴史資料館資料集　第19集	明治学院歴史資料館
0420	立教ディスプレイ	立教学院展示館
0522	東北大学史料館研究報告　第18号	東北大学史料館
0730	西南女学院100年のあゆみ	学校法人　西南女学院

0908	キリスト教史学　第77集	キリスト教史学会
1226	立教と箱根駅伝	立教学院展示館
0206	フェリス女学院歴史資料館紀要　第76号	学校法人フェリス女学院

（3）受贈資料

受領月日	刊行物名	受贈者
0515	本多庸一の親族　明治・大正・昭和、そして（上下巻）	本多 泰様
0525	困惑を超えるもの　大沼隆遺稿説教集	大沼隆氏ご親族様
0922	東光学園100年の歩み～次の100年に向けて～	社会福祉法人東光学園

資料室運営委員会

委員長	佐々木哲夫	（宮城学院理事長・学院長）
委員	田中 弘志	（元宮城学院中学校・高等学校校長、前理事）
	長井 祥子	（元宮城学院同窓会会長）
	色川 幸子	（宮城学院同窓会会長）
	栗原　健	（宮城学院女子大学准教授）
	丸山　仁	（宮城学院中学校・高等学校教頭）
	伊藤 幸子	（宮城学院女子大学大学事務部庶務課）
陪席	本田 辰雄	（宮城学院事務局長）
資料室	佐藤 亜紀	（宮城学院資料室職員）

宮城学院資料室年報『信・望・愛』2023年度 第29号

2024（令和6）年3月31日発行
編　集　宮城学院資料室/宮城学院資料室運営委員会
発　行　学校法人宮城学院
〒981-8557
宮城県仙台市青葉区桜ヶ丘9-1-1
電話　022-279-1311（代表）
022-279-7765（資料室直通）
E-mail　shiryoshitsu@mgu.ac.jp

印　刷　宮城学院生活協同組合
〒981-0961　仙台市青葉区桜ケ丘9-1-1
電話　022-278-1613